

第21回神奈川県美術展

◆会場／神奈川県民ホールギャラリー ◆主催／神奈川県美術展委員会 神奈川県

1 期展 工芸／書／写真 60年10月1日(火)～10月13日(日)

2 期展 日本画／洋画／版画／彫刻／立体造形 60年10月15日(火)～10月27日(日)

第21回神奈川県美術展

●
1 期展／工芸・書・写真

昭和60年10月1日(火)→10月13日(日)

●
2 期展／日本画・洋画・版画・彫刻・立体造形

昭和60年10月15日(火)→10月27日(日)

●
会場／神奈川県立県民ホールギャラリー

●
主催／神奈川県美術展委員会・神奈川県

ごあいさつ

いま「パンとバラの時代」といわれるように、暮らしを物の豊かさだけでなく文化の面から見直し、個性豊かで潤いのあるものにしたいという願いが高まっています。人々の文化活動が鑑賞のみにとどまらず、自ら創造に取り組む幅広いものになりつつあるのも、こうした社会の変化と軌を一にするものと申せましょう。

神奈川県美術展は昭和40年の創設以来、公募と展覧会を通して、県内作家の育成と、県民文化の向上をめざしてまいりました。芸術が人々の生活の中で不可欠なものとなった現在、神奈川県美術展の担う役割も年ごとに大きくなっていくものと思われます。

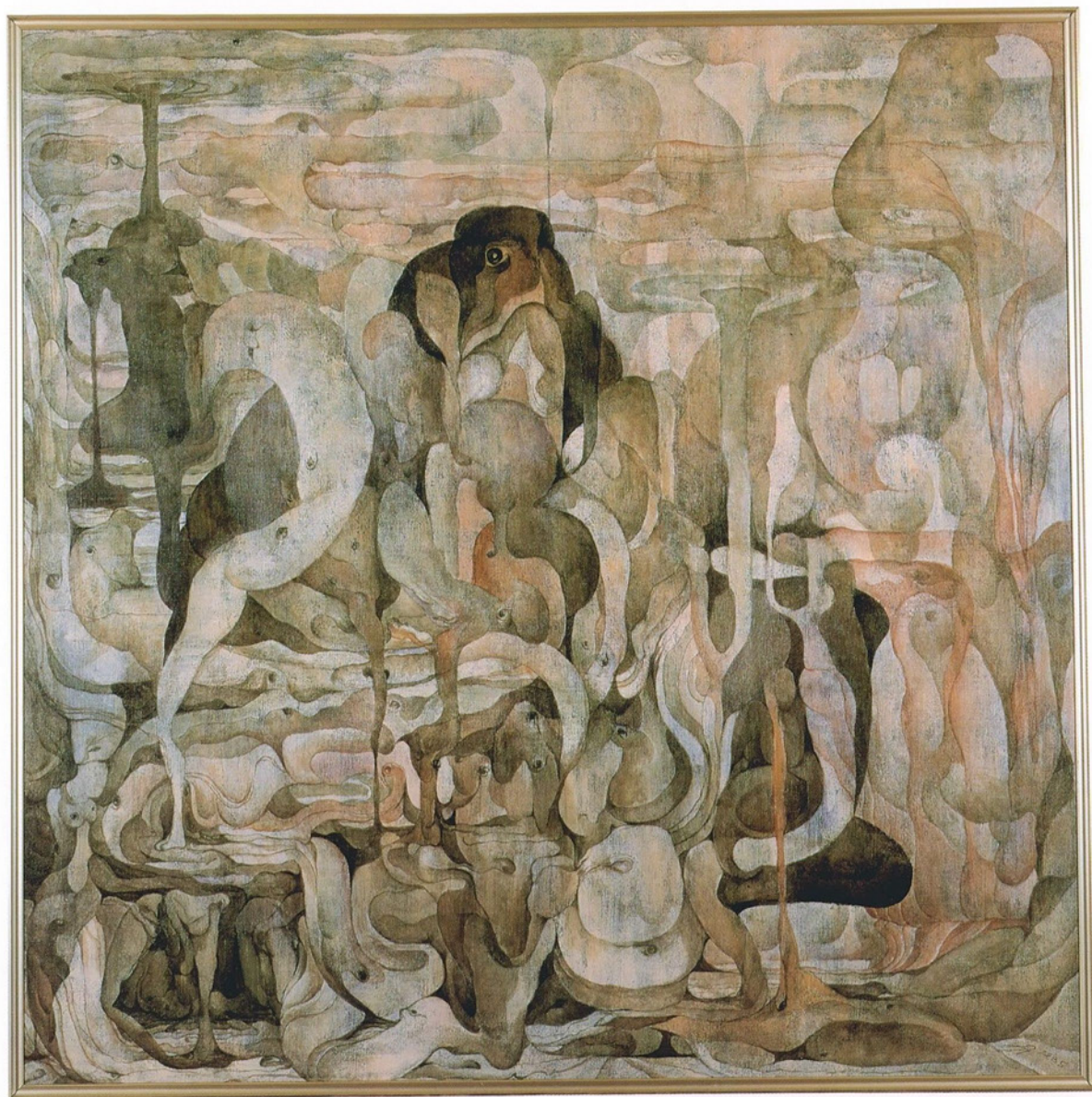
昨年、第20回記念として行った全国公募の試みも、幸い関係の皆様の大きな御支援により成功裡に終了することができました。本年からは、これまでに培った成果をもとに、よりすぐれた美術展として神奈川県文化の発展に寄与するため、新たな歩みを始めてまいりたいと存じます。どうかこれまでもまして暖かい御支援、御協力を賜りますようお願いいたします。

最後になりましたが、このたびの第21回展の開催に御尽力いただきました関係者の皆様に心から御礼申し上げ、ごあいさついたします。

昭和60年10月

神奈川県美術展委員会

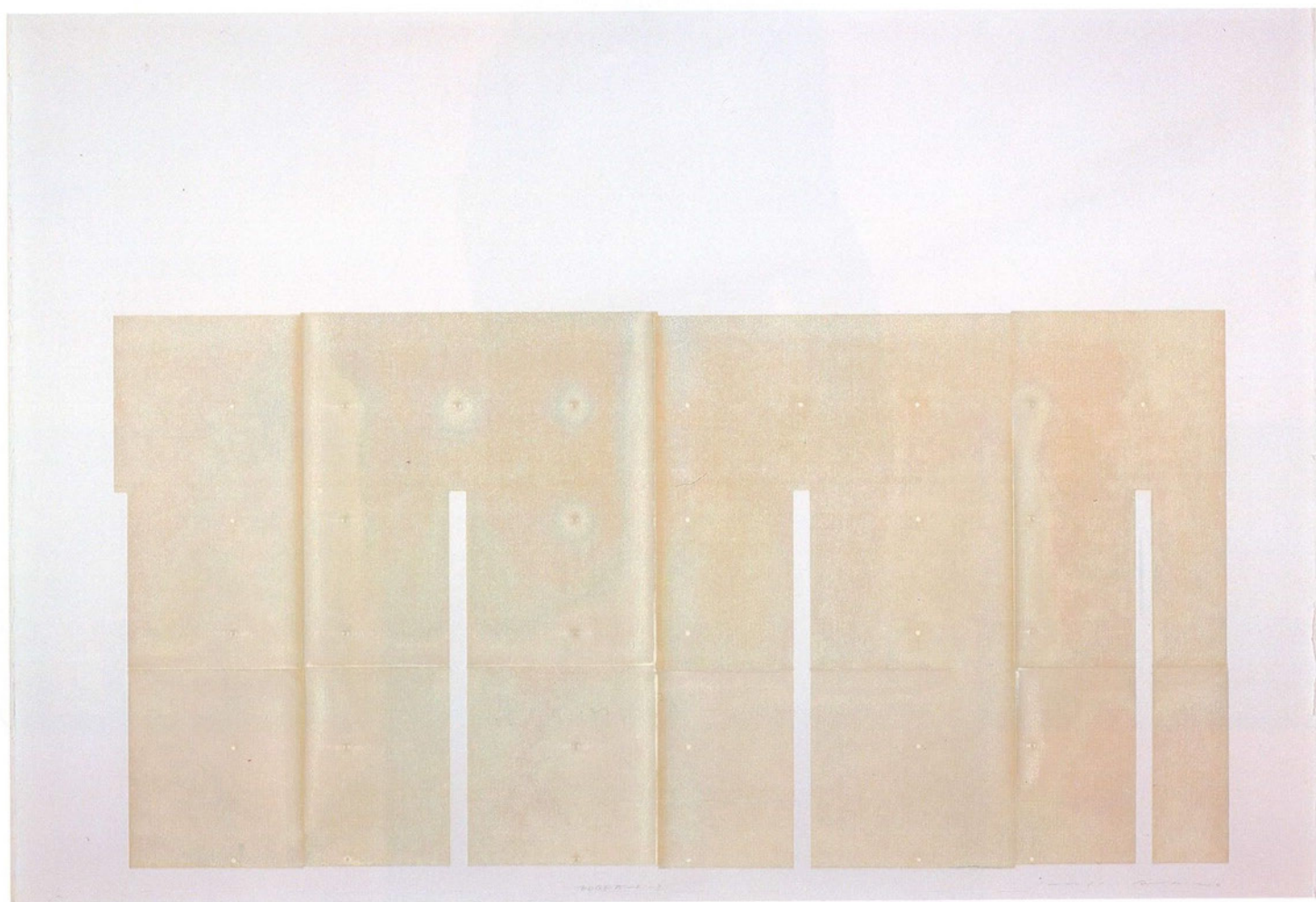
委員長 上 野 豊



■大賞 鶴見 厚子 夢の質感 (洋画)



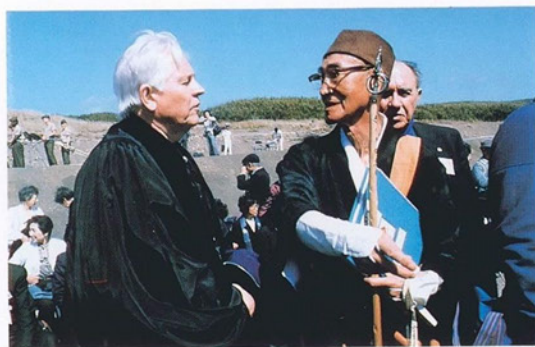
■準大賞 松本 憲義 原子心動Ⅸ (立体造形)



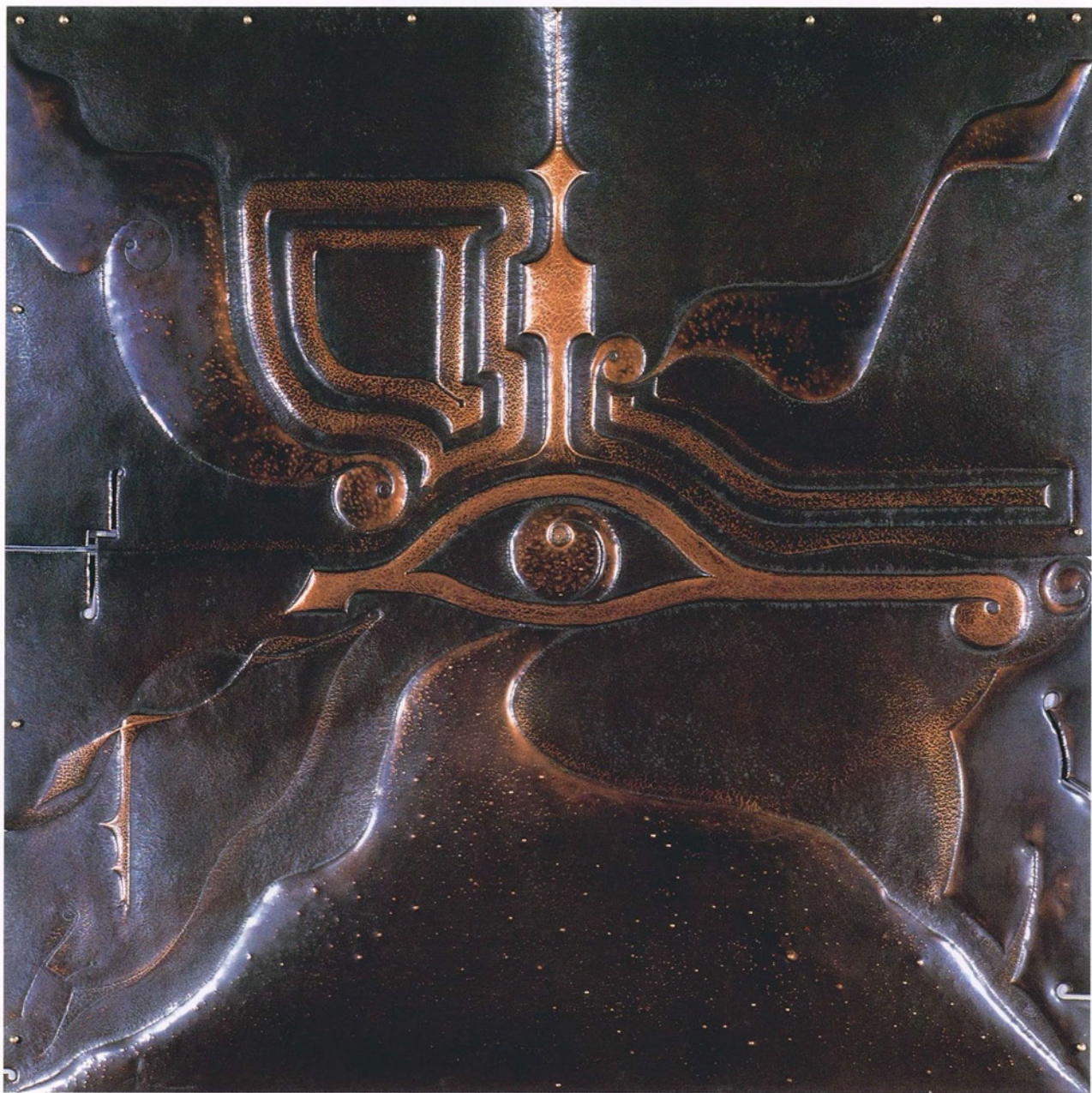
■特選 天野 純治 EDGE85-K-8 (版画)



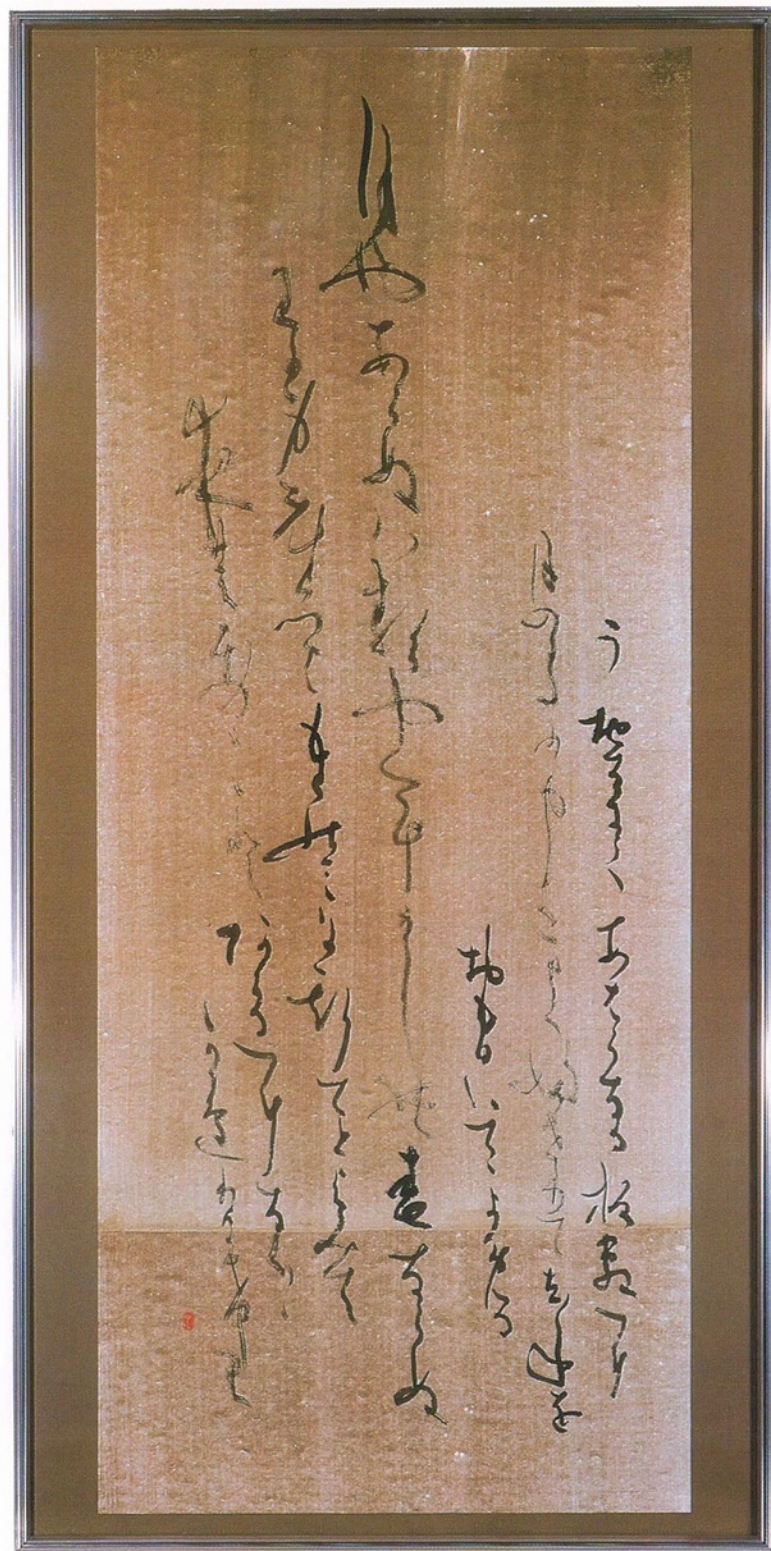
■特選 梅田 勝裕 砂の女 トルソ No. 2 (彫刻)



■大賞 石渡 四郎 硫黄島の再会 (写真)



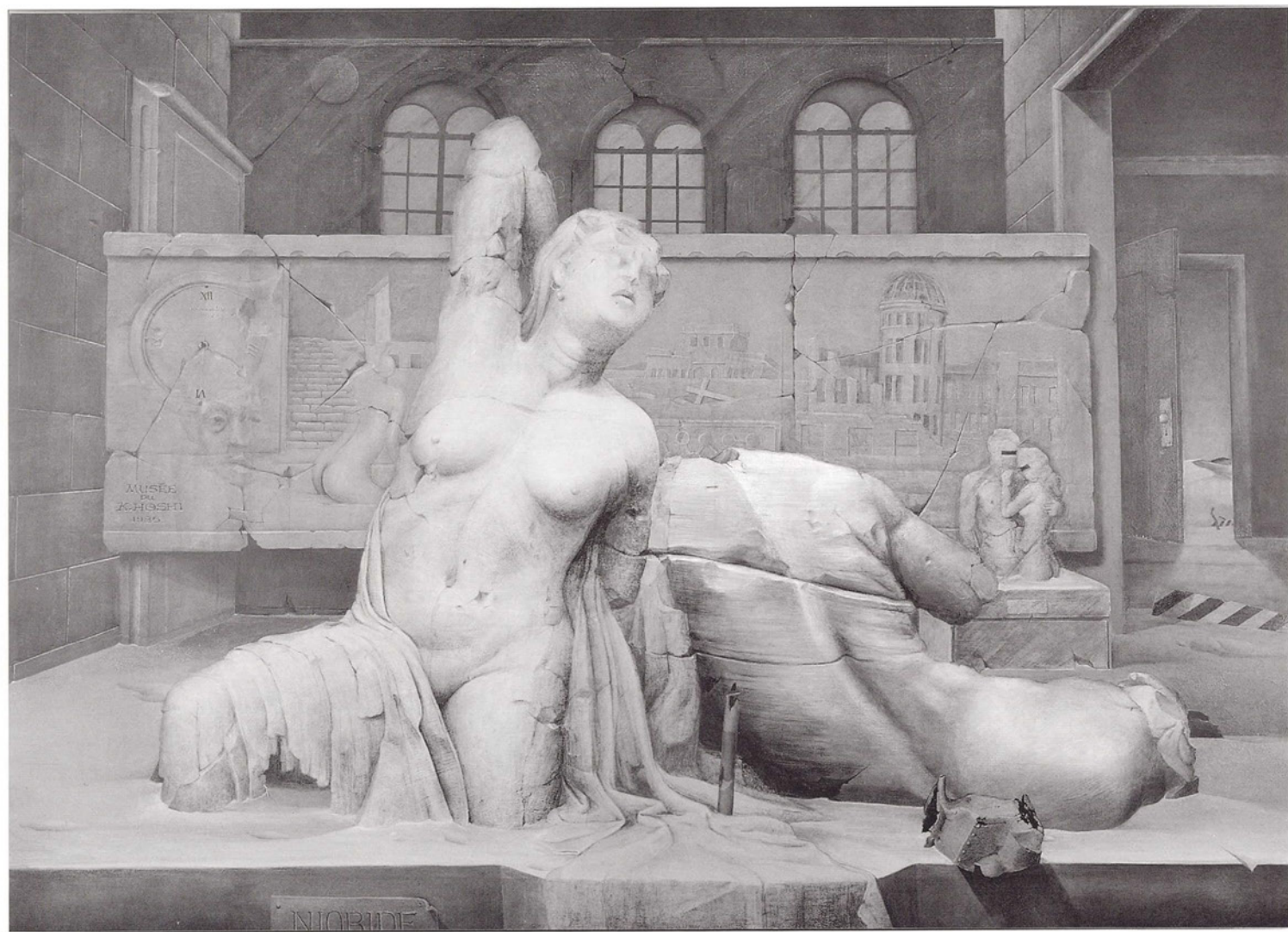
■準大賞 石井 理恵 動止一瞬からの (工芸)



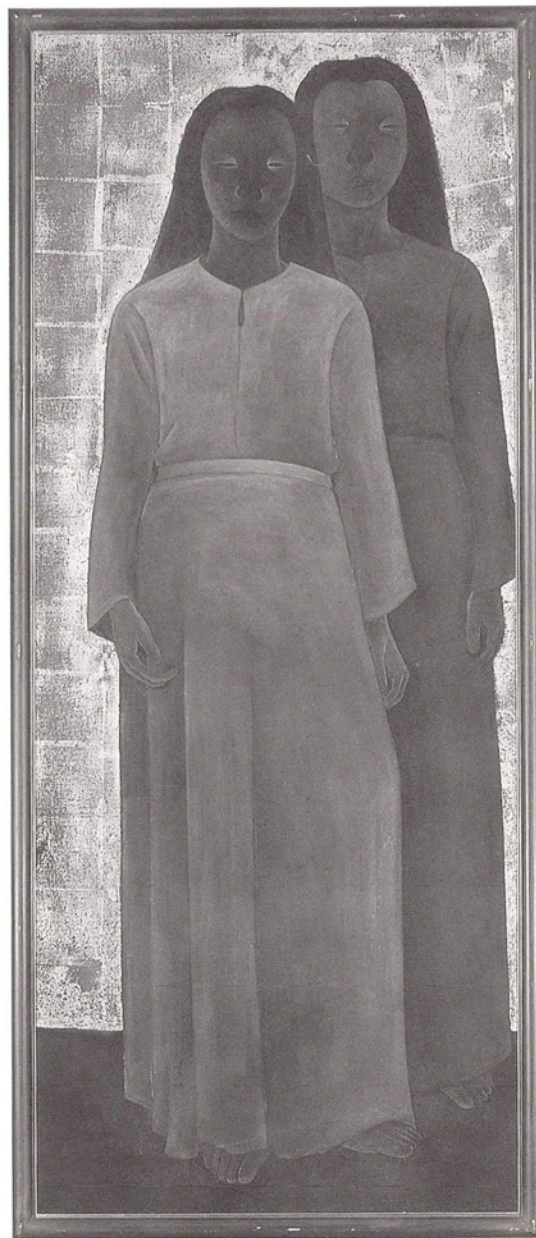
■準大賞 野田 翠蘭 伊勢物語より「月やあらぬ」(書)

新雪の心
碎衣見え
て道十
富士

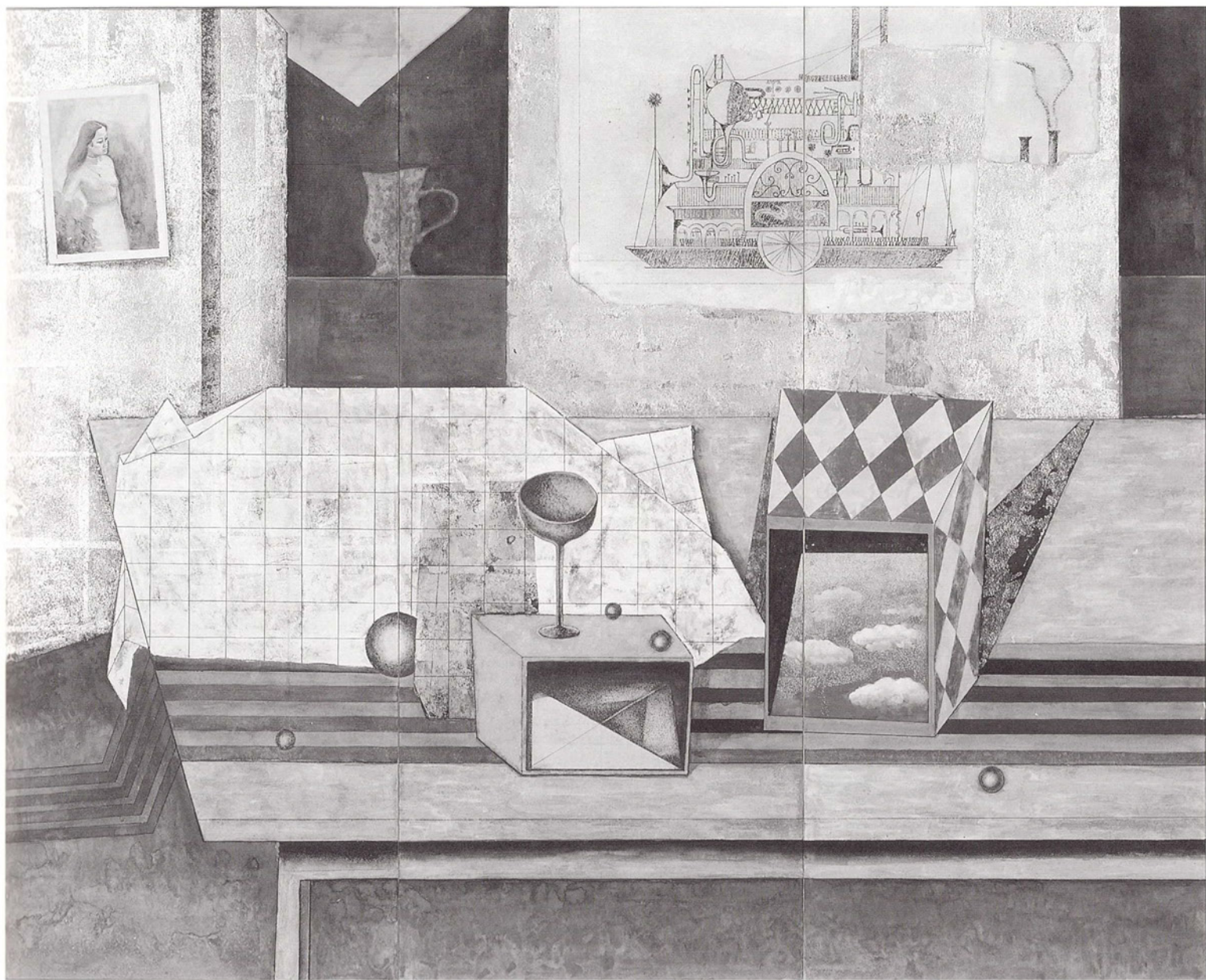
石井桐陰の句
魚石



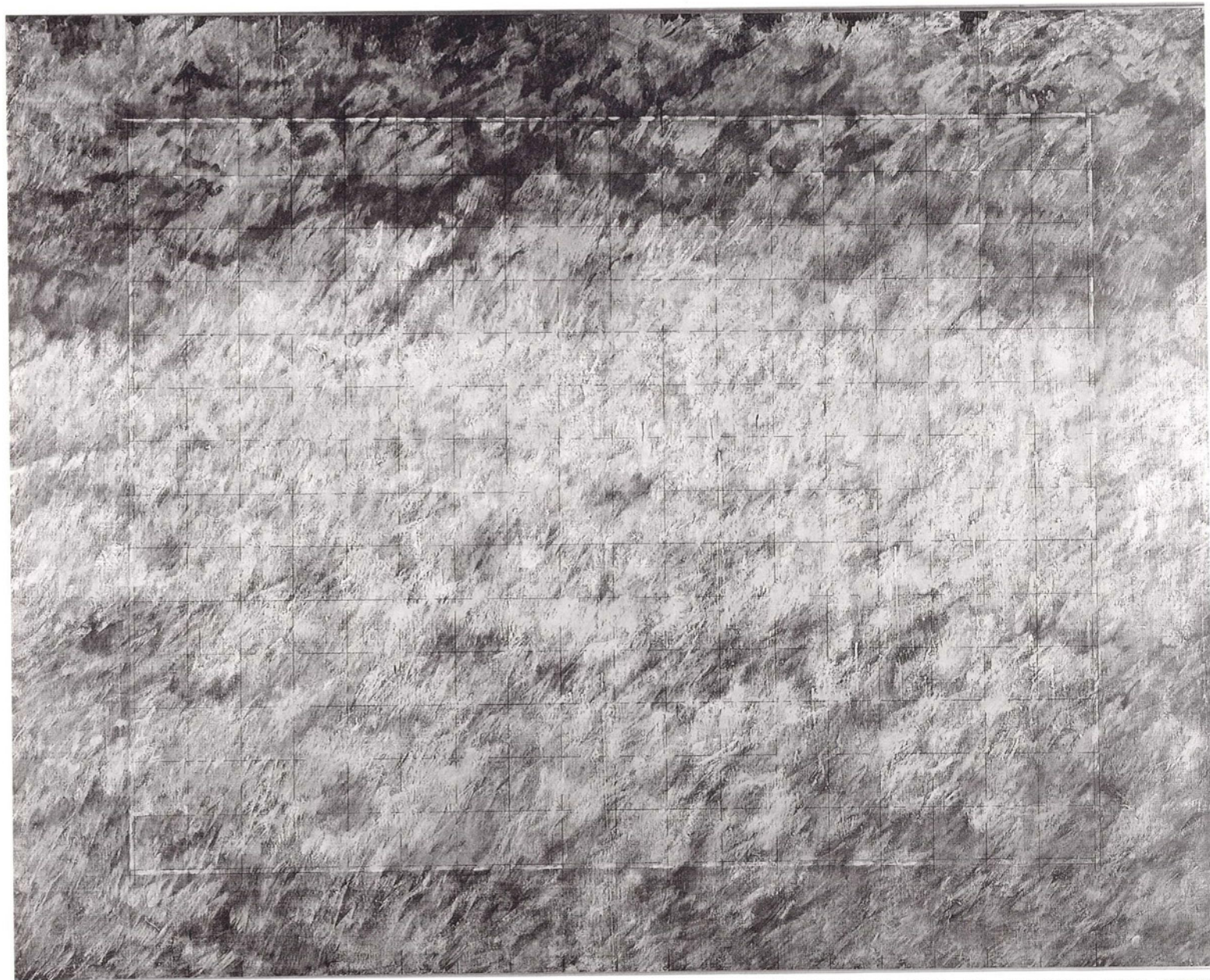
■神奈川県立近代美術館賞 星 兼雄 MY MUSEUM (洋画)



■美術奨学会賞 平岡 英二 人間一祈り (日本画)



■美術奨学会賞 照井 登紀子 My favorite things (日本画)



■美術奨学会賞 石井 誠 IN THE SKY (洋画)



■美術奨学会賞 日向野 桂子 今日は お元気 (版画)



■特別奨励賞 井出 文洋 風の色—湖— (日本画)



■特別奨励賞 尾長 良範 クラクション (日本画)



A P

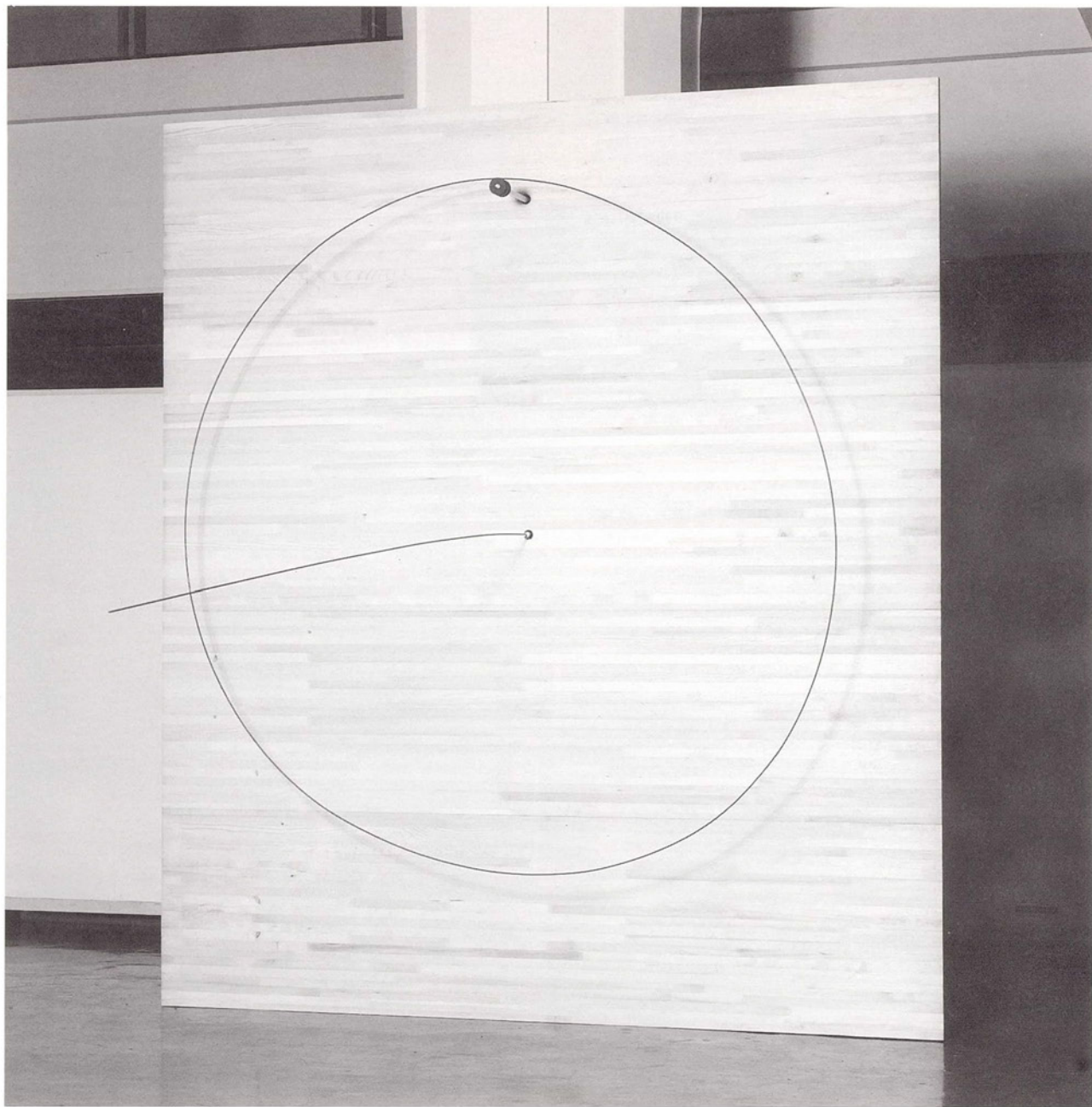
ドア板シリーズ



ヨコスカパイラー

Kazuo Sugiyama

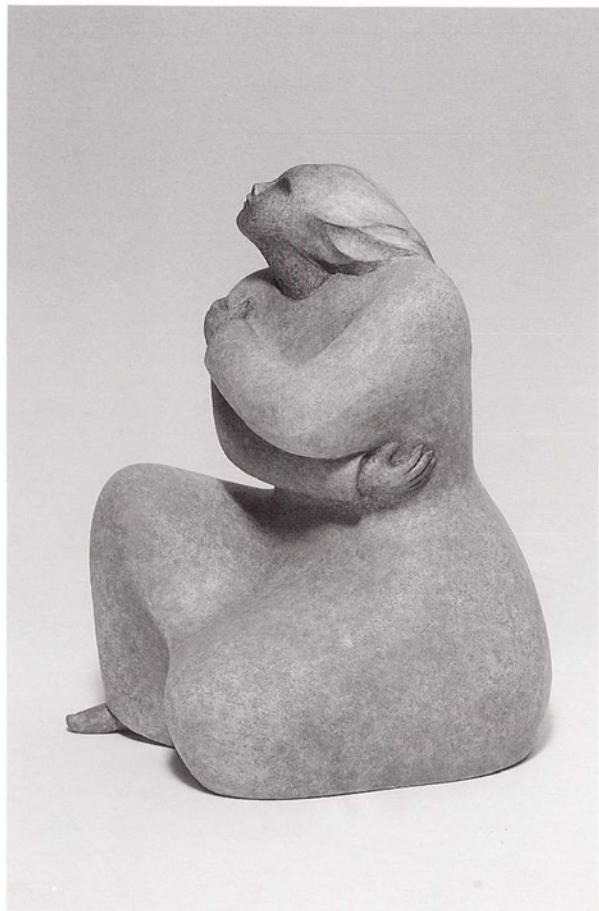
■特別奨励賞 杉山 一夫 ドブ板シリーズ(ヨコスカパイラー) (版画)



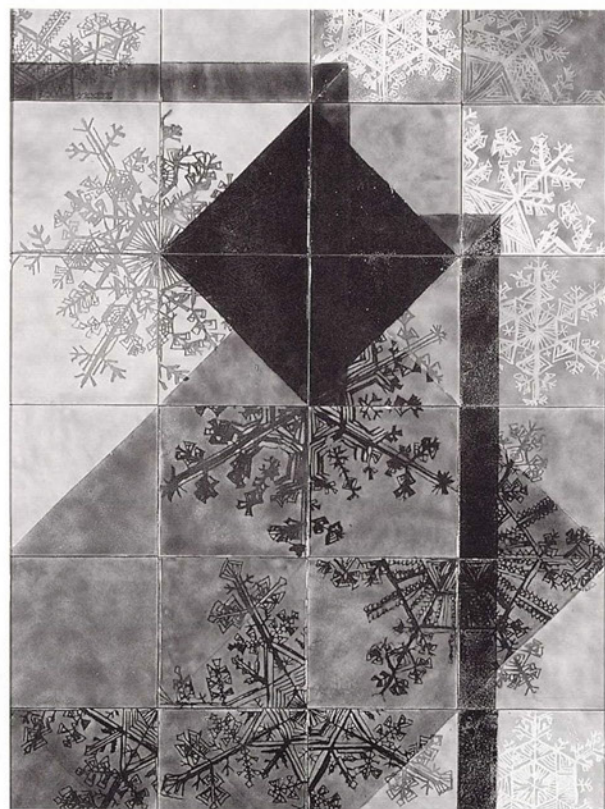
■特別奨励賞 平野 米三 時空 (立体造形)



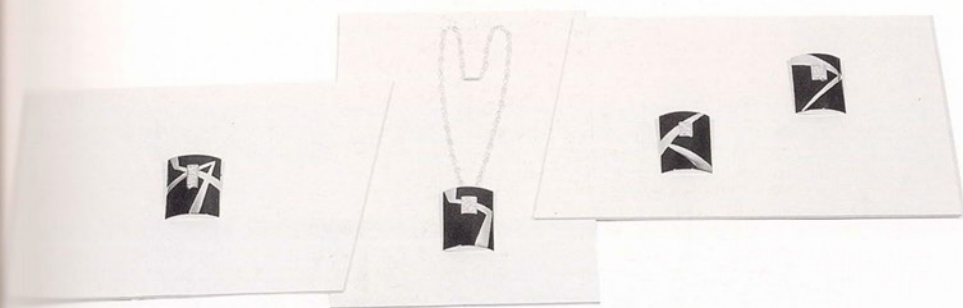
■県議会議長賞 村田 則子 内海の彩 (工芸)



■美術奨学会賞 田中 道子 「海に祈る」ナザレの浜にて
(工芸)



■美術奨学会賞 西山 美恵子 七宝壁面パネル「雪の結晶」(工芸)



■美術奨学会賞 市原 富士子 ジュウリー (工芸)

人生無根蒂，飄如春風花。亂世已時暮，行役復多虞。感此涕零心，欲爲君子歎。一曰難忘晨風時不離，難忘歲月不留人。自白滿面，月如東顧。蓬蒿里靜居，一室中清風又入。人多悲秋，枕席冷氣，憂始時苦，不眠。不月永歎，不離乎如輝，如點紙，如日月輝人。未嘗忘不離，離念以此懷思，終夜不能靜。第新難人，在遠愛不可言。昔萬三志葉，公作秋道爲嚴霜，然新錦，結啼未遠，六月月星便由我，不在陽春，在昔時想。別斯人，斯文未忘，如海我願，不亦在親戚否。度月疎尋，如似能，既歸，朝十時，不覺夜常盡，歡起，起晚，眼常苦，望若面，若以冰炭，冰炭抱手，年歸，即舊用，如守常。憶我少壯時，學書自欲，後影志，思公信，素相思，思君在歲月，親心，前已忘，但歡，但復親，如多愛，處處力，深愛，願

■美術奨学会賞 吉田 春翠 陶淵明詩（書）

大軍征崑崙山勢
雲龍江漢鏖如龍
獨守一城雄兵長
風雲相激如猿飛
蒼龍天下壯氣自
空騰英豪生氣萬
今義懷無窮憂何
中國西望上將軍
生龍活虎范范萬
道自是雄略之奇
石頭城山滿龍虎
騎子厚雜敗渡黃
入洛竟何處鐵鉞
古之國多三國之
此生之國仁義未
暗務刻據集度戰
浪差漸我年華空
國祚亂初年事幾
示當忘不日長浪
聲雲漢白茫茫中
定江聲

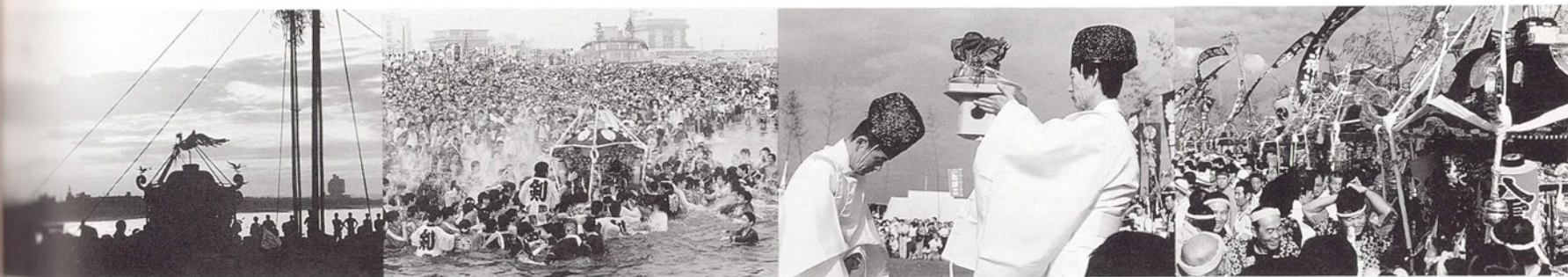
■美術奨学会賞 生嶋 静月 高啓詩 (書)

[illegible]

■美術奨学会賞 松岡 梅影 秋の色種 (書)



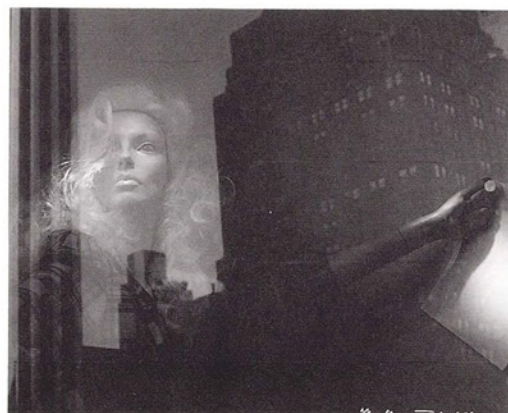
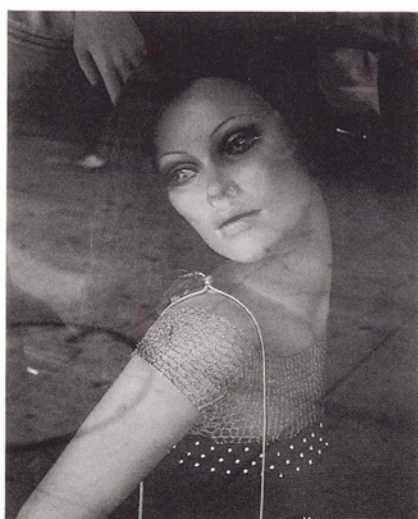
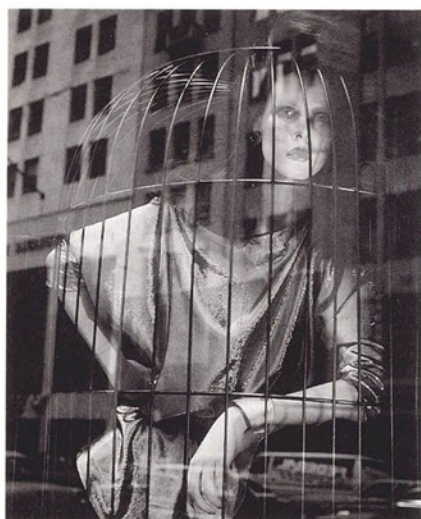
■美術奨学会賞 青地 則明 歩 (写真)



■美術奨学会賞 山田 諱巳男 浜降祭 (写真)



■美術奨学会賞 矢部 千代吉 一休み (写真)



■美術奨学会賞 田辺 和郎 都市人形 (写真)



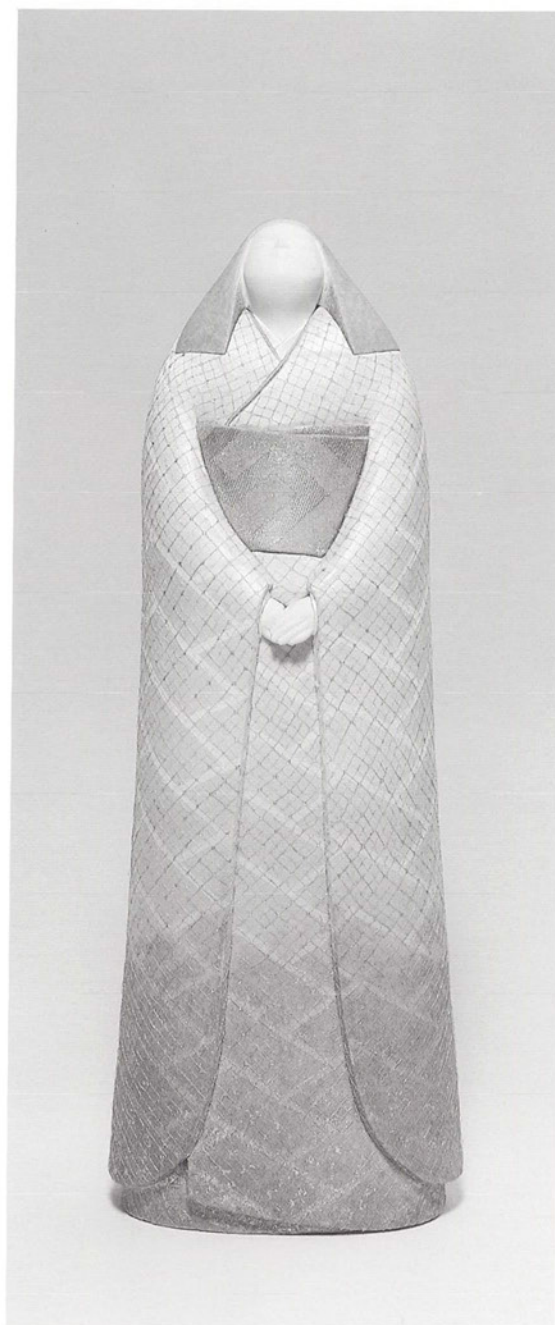
■特別奨励賞 八重森 千賀 印(しるし)PART III (工芸)



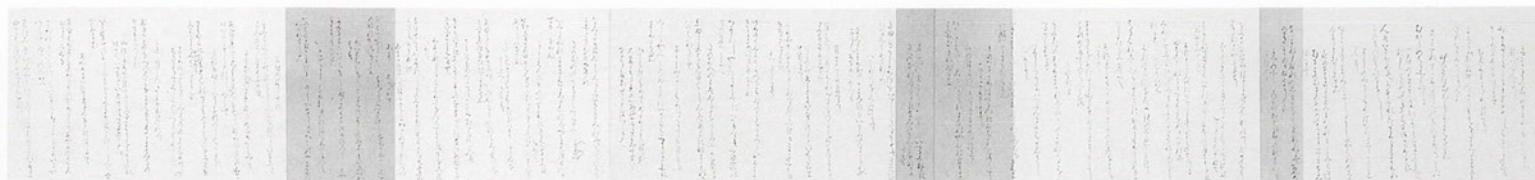
■特別奨励賞 木下 もと子 木版押し型染「箭文紬着物」(工芸)

小秋高月如錦
 上重雲飛渡江初
 有若蓬舟
 杜甫詩
 野頭莊雲書
 此詩乃杜甫詩也
 杜甫詩云
 小秋高月如錦
 上重雲飛渡江初
 有若蓬舟
 杜甫詩
 野頭莊雲書

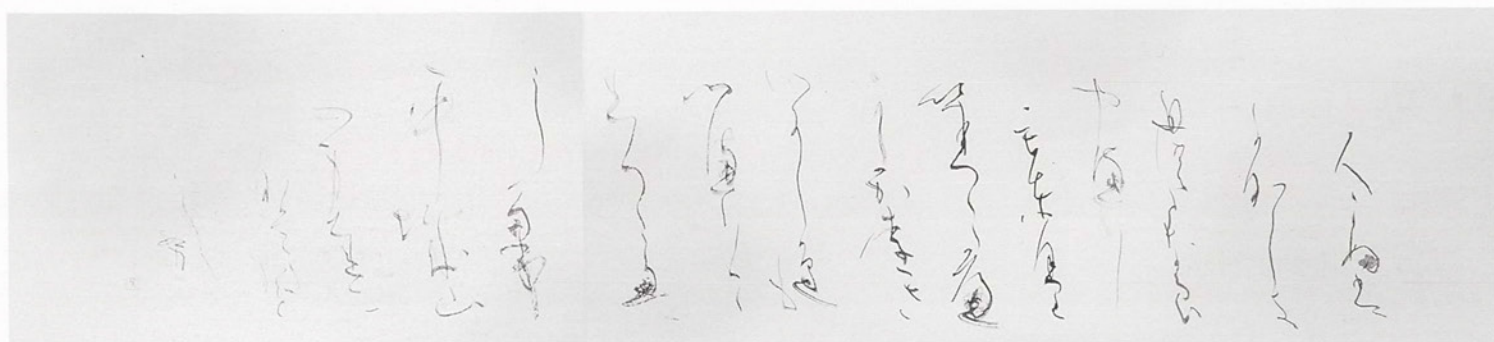
■特別奨励賞 野頭 莊雲 杜甫詩（書）



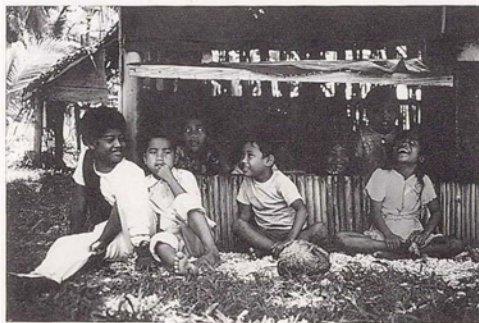
■特別奨励賞 佐藤 登志子 萌（工芸）



■特別奨励賞 山辺 静塘 針切 (書)



■特別奨励賞 飯田美砂子 平城山 (書)



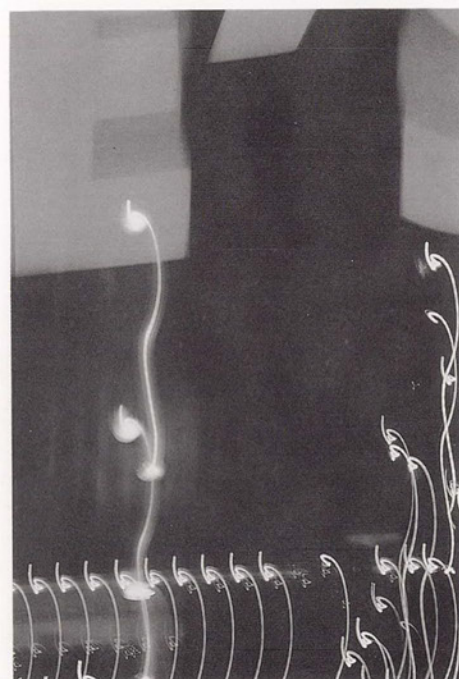
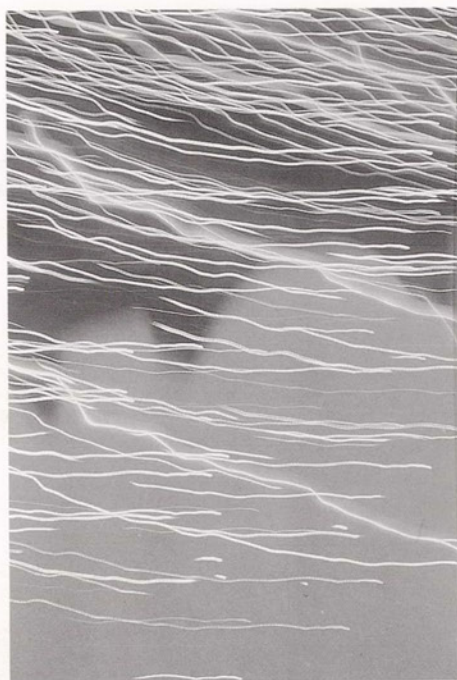
■特別奨励賞 DENNIS WEBER ミクロネシア・デアフター (写真)



■特別奨励賞 山本 潤一郎 真夜中の嬌艶 (写真)



■特別奨励賞 吉川 弘 基地開放の日(厚木飛行場) (写真)



■特別奨励賞 金子 伸司 紅光 (写真)

■ 入賞作品目録

■ 入選作品目録

■ 審査経過

■ 大賞受賞者

■ 第21回神奈川県
美術展委員会組織

■ 入賞作品目録

〈日本画・洋画・版画・彫刻・立体造形部門〉

■ 大 賞

鶴 見 厚 子 夢の質感（洋画）

■ 準大賞

松 本 憲 義 原子心動Ⅸ（立体造形）

■ 特 選

天 野 純 治 EDGE 85-K-8（版画）

梅 田 勝 裕 砂の女 トルソ No.2（彫刻）

■ 県立近代美術館賞

星 兼 雄 MY MUSEUM（洋画）

■ 美術奨学会賞

平 岡 英 二 人間一祈り（日本画）

照井登紀子 My favorite things（日本画）

石 井 誠 IN THE SKY（洋画）

日向野桂子 今日は お元気（版画）

■ 特別奨励賞

井 出 文 洋 風の彩—湖—（日本画）

尾 長 良 範 クラクション（日本画）

杉 山 一 夫 ドブ板シリーズ(ヨコスカパイラー)(版画)

藤 田 修 Painter's Work shop（版画）

平 野 米 三 時空（立体造形）

〈工芸・書・写真部門〉

■ 大 賞

石 渡 四 郎 硫黄島の再会(組)（写真）

■ 準大賞

石 井 理 恵 動止一瞬からの(金工)（工芸）

野 田 翠 蘭 伊勢物語より「月やあらぬ」（書）

■ 特 選

川 瀬 魚 石

石井桐陰の句（書）

■ 県議会議長賞

村 田 則 子

内海の彩（染織）（工芸）

■ 美術奨学会賞

西山美恵子

七宝壁面パネル「雪の結晶」（工芸）

田 中 道 子

「海に祈る」ナザレの浜にて（人形）（工芸）

市原富士子

ジュウリー（工芸）

吉 田 春 翠

陶淵明詩（書）

生 嶋 静 月

高啓詩（書）

松 岡 梅 影

秋の色種（書）

青 地 則 明

歩（写真）

山田譚巳男

浜降祭（組）（写真）

矢部千代吉

一休み（写真）

田 辺 和 郎

都市人形（組）（写真）

■ 特別奨励賞

八重森千賀

印（しるし）PARTⅢ（革工）（工芸）

木下もと子

木版押し型染「荀文細着物」（工芸）

佐藤登志子

萌（人形）（工芸）

山 辺 静 塘

針切（書）

飯田美砂子

平城山（書）

野 頭 莊 雲

杜甫詩（書）

DENNIS WEBER

ミクロネシア・ディアフター（組）（写真）

山本潤一郎

真夜中の嬌艶（組）（写真）

吉 川 弘

基地開放の日（厚木飛行場）（組）（写真）

金 子 仲 司

紅光（写真）

■ 入選作品目録

〈日本画〉

野崎丑之介	餓鬼
熊谷桃子	湖の母子
近藤肇	真昼の街
金井ノリオ	Transposition
波多野杜邦	サットヴァ・カルマンの微風に
香野ルミ子	夜の回転木馬II
山下まゆみ	二匹の猫
小島孝彦	都市—象徴化する軌道
畑恵子	室内
栗城貴宗	横浜港
宮前正樹	漂流II
鶴田耕治	追想II
鈴木教子	溪II
織田梓	新雪
等々力克彦	メカニズムの断層
小林千里	風景
鈴木国男	ROOM No. 09011078
吉武千枝	銀河の夜
依田万実	動物園
山岸いずみ	SquareIII-Jumbe (首領)
松谷千夏子	根岸の空に
森川典子	南への誘惑
佐藤潔	ノートより一月—
森和彦	南南西

〈洋画〉

いの上重子	交差する風景I
青木道夫	黎明の時刻(B)
奥田紘	ジョイントを求めて
高田暁美	クロノグラフ (Kanon)
田中豊	BUTTOCKS・IX
小暮満寿雄	VideoとコミュニケーションI
江川光信	枯木林の中(A)
河上明彦	Memories
須永祥雍	NO-6
平田清隆	作品(I)
斉藤猛	スコール
小川浩	境界線
田中善隆	たちばなし
月岡和子	父のいる風景No.2

龍池敦美	リズムI
九多持	金曜日の月
菅野昌實	かん衆 (格闘技場於)
原秀一	社会科見学
萩原和子	休日(II)
小塚政雄	a rain in June (6月の雨)
片岡世喜	窓側のトルソ
山本晃司	Deep Sea
竹下隆	Monument-E
男谷省吾	憧憬
三塩寿子	(A) 希望—めばえ
大木薫	砂糖菓子
田中愛子	絃歌
尾竹由己	Work-H-2
竹村皓子	夢 (ある風景)
大久保俊夫	六十年代競技大会
志賀幹司	戻らぬ風景
杉村彰一郎	モデルと私と塑像たち
広田純男	壁
大須賀理恵	かわいいお寿司屋さん
小川勝	私の内へ
剣持勝美	1985
斎藤守	Profile
能勢美保子	無物I
小林一行	木戸II
清水梢太郎	「森、虫、光」
松本京子	扉のある風景—影響
高橋庸祐	ground II
古道健治	午後のまどろみ
重田啓子	塔
塩川高敏	樹映 (暦)
押田陽子	絡漂 (I)
梅原健二	しぐれ顔
山手政男	内造式85—7
山田順子	Work H-5
近藤栄子	膜片の下の網目
長岡一豊	私の棚 (一隅)
勝俣正次	赤い屋根の家
鈴木桂子	生物
出口佳子	大地 No.1
加藤恭夫	手と手
青木登史男	オノコロジマ (2)
佐藤淳子	立ちつくす風景B

内 田 尚 子 赫いユーモア (III)
 小林タミエ 砂上の風景 II
 今 田 明 宏 うずめられしもの (祈り)

<版画>

久 保 卓 治 Ratherhithe Tube Station
 村 岡 千 秋 宇宙遊泳
 阿 部 成 治 過程 XVI
 郷 義 郎 人物 B
 雙 田 実 DEFENSIVE GLASS-1
 市 川 有 子 海の風景 '85-9
 松野登美子 Pastoral poem No. III
 寺 田 有 恒 飛来
 姜 愛 蘭 object-85-V
 奥井富士夫 ☆
 山 上 範 子 乱舞する人
 近 藤 憲 昭 cellular
 浜 西 勝 則 Situation-Work No. 3
 長 野 潤 子 誘う 1
 遠 藤 竜 太 変位の過程
 渡 邊 繁 治 85-VII
 萩 原 順 子 ふくろうのいる夕暮れ
 秋 庭 宏 行 スライス
 青 木 亜 矢 Silent Moment VI
 四 方 義 朗 ポン-4
 浦 谷 弘 人 朱に交われば
 藤原百合谷 Chaconne
 小清水量造 アウトライン '85-D
 藤 岡 慎 床上の風景
 安 原 典 子 水道管ゲーム II
 太 田 廣 New Landscape. 60-10
 横 尾 文 子 映・B

<彫刻>

植 木 孝 二 初夏 '85
 清 水 幹 子 たまゆら V
 高 橋 忠 卒業の日
 杉 英 行 A MAIDEN VOYAGE
 神 山 茂 樹 岬
 酒 井 道 久 羊飼いになった男

<立体>

窪 田 俊 三 三角体の青布
 渡 辺 邦 男 支えられた平面「接点×3」TRIANGLE
 鈴 木 朝 湖 Every day II
 本 村 元 造 作品 B・C
 人 首 康 二 対置、空
 山 口 俊 朗 無題 I・II
 大 川 幸 男 パーティー
 廣 田 美 穂 サバンの夜、そこに立っていた。
 田 中 忠 夫 コラム E
 金 井 良 子 飛ぶこと
 赤 嶺 清 順 作品 11
 線 幸 子 層 I・II
 山 本 秀 夫 パンブー パフォーマンス
 倉 橋 元 治 修羅
 山 下 苺 穂 パラドックスの外出
 大久保忠春 空間構造 85-2
 栢 沼 州 良 木と鉄の作品
 水 津 慎 吾 廃物と木の枝のレリーフ (No.85-8・9)
 大 塩 英 夫 揺れる心たち
 木 嶋 正 吾 絶対零度 85-E
 島 田 憲 一 浮
 丸 田 秀 三 今年の石
 サナダサダラ 作品 '85=312. 4 台の TV

<工芸>

桑 原 平 治 黒象嵌羊歯文花器
 関根祐貴子 メキシコの思い出
 小 園 博 変波文組皿
 吉 崎 え り 城
 多々内都子 翠蔭
 和田三枝子 鎌倉彫 シャクナゲ文宝石箱
 鈴 木 貴 夫 宙 (ちゆう)
 山 田 悦 子 細型染草木帯 “ふるさと”
 和田美奈子 細型染着物 “輪唱”
 山本多江子 午前 0 時の太陽
 石 井 梅 子 ロ-ケツ染 着尺
 加島登美子 器物 (七宝) (水辺の音)
 武 井 源 蔵 研出蒔絵 袈裟箱
 京 極 三 恵 子 細織訪問着 “桜”

小 川 祐 子 組紐
 伊 藤 義 郎 象嵌縄文の壺
 梅 本 和 美 Television 2
 栗 田 久 子 草木口ケツ染
 中 沢 秀 矢羽根の譜
 出 縄 高 昭 樹氷
 山 田 秀 雄 流峰
 匹 田 陽 子 もの想う
 城田美智子 遊びのあと
 遠 藤 幸 子 草紋 飾り皿 1
 甘 糟 憲 正 楡溜漆脇息
 吉 岡 末 子 ユニット構成「海鳴り」
 猿 田 洋 子 草文壺
 鈴 谷 茂 翁 庭・竹・茶箱
 鈴 木 亘 練上壺
 岡 田 稔 時〈as time goes by〉
 吉 崎 僚 一 叩三島組皿
 上 田 菊 明 刺繍帯、弧線椿
 伊 藤 律 子 うね編みの花器
 高 橋 あづま 湖水II
 小 倉 久 美 子 岳への思いを雲に乗せて
 小 林 豊 線彩黒容
 稗 田 輝 子 “白鳥になりたかった駝鳥”
 高 橋 操 笑ウト 負ケヨ
 小 山 邦 子 草木口ケツ染、染額 葉鶏頭
 田 谷 そ よ 一寸法師1・2・3・4・5
 平 山 敏 文 My WIND
 高 橋 敏 子 晩秋
 佐々木達行 三島熊谷草文壺
 中 野 幸 男 屈曲
 鈴 木 寛 盛器
 松 本 博 行 水紋
 三 輪 博 子 解逅
 関 佳 子 額 すゝき
 関 谷 安 子 染織「藍」藍染
 平 野 朱 美 夢で逢いましょう
 有 賀 潤 子 月下響宴
 咲田卑弥子 銀河飛翔
 山 下 敦 子 風の踊り
 大 湊 一 恵 夢の中で
 松平由紀子 プローチ
 原 茂 一 紐作り 伊羅保釉つぼ
 吉 澤 澄 子 さすらい

小 山 岑 一 油滴壺
 斉 藤 茂 鉄釉壺
 澤 井 幸 男 練上壺
 川 村 由 海 かすみ草文壺
 福 岡 幸 基 グラヴィールさくら文皿
 山 崎 隆 雄 球対3
 金 子 清 天目釉条文鉢
 大八木由紀子 大空へ
 中 島 光 雄 なぎさ
 中野千代司 渚の印象
 長 澤 義 春 練込壺 I
 広 瀬 祐 見 深海のささやき
 石 井 智 裕 黄瀬戸輪花組鉢
 上平智野子 着尺「秋間道」
 菅 井 理 栄 棚引く
 〃 つばき
 菅谷千鶴子 悠久
 平 賀 妙 子 象嵌線紋壺
 石 塚 操 櫛目象嵌花器
 奥 西 雅 知 かいう紋五段引出し
 山 口 浩 二 宙吹硝子流文花器
 湯 浅 正 子 ……in spring
 大津由美子 漂
 建 部 敏 枝 リング
 坂 田 隆 夫 glass plate
 佐々木松雄 均窯壺
 南雲竜比古 自然界からのメッセージ
 本 田 敏 晴 婦人
 北 田 博 美 紅藤霞
 中 山 啓 子 round and round
 坂 井 輝 夫 青瓷組鉢（5客）
 足 立 治 男 アンモナイト
 中 村 良 哉 八曲大鉢
 守 屋 照 子 晩春
 斉 藤 由 一 平和への道（透胎七宝）
 高 野 聖 子 帰鳥
 谷田部君江 母と子
 大 原 乾 資 染藍染板締麻布間仕切り
 〃 染藍型染ユチニール引き着尺
 太田美佐枝 秋の賦
 新 井 友 子 春めく
 高 木 京 子 半磁器上絵蓋物
 山 口 啓 子 残響

田 辺 由 子 窓辺にて（バラ）
井 上 達 海映
木 下 稔 夫 漆パネル「ねがい」
鈴 木 緑 桜島扁壺
飯塚みゆき 六枚吉野織一名古屋帯地
佐 藤 秀 雄 蒼
高 垣 篤 青瓷象嵌壺
門脇万紀子 渦紋合子
わた辺きょうこ 有線七宝「毒だみ文花瓶」
石 川 武 士 時象 '85
細 井 基 夫 静で封じた動
水 越 繁 罌粟
斉 藤 三 枝 子 洗朱留メ塗柘榴文二段重

〈書〉

竹 俣 華 崙 蘇東坡詩
鈴 木 香 潭 七言律詩
小野寺溪春 遊化感寺王維詩
志 村 忠 夫 吳昌碩の詞
神 谷 芝 崙 許渾詩
河 合 瑞 祥 咸陽城東樓
柏 野 一 枝 蘇東坡の詩
津 田 崙 彬 李白詩二首
立 花 久 子 羊土譚
横 山 芳 碩 晩に湘源県に歌う（張泌詩）
黒 田 杪 崙 皇甫冉の詩
山 口 清 晴 岑參詩
小 林 清 坡 姚饒詩二詩
尾 家 環 崙 王漁洋詩
松 崎 琴 翠 諸上座佛語
吉 田 直 美 李商隱詩
大 島 謙 介 王維之詩
浜 本 艸 舟 王維の詩（田園樂）
福 井 幽 紅 莫帰
渡 邊 誠 子 聞怨
深 松 耿 翠 中書夜直夢忠州
板 垣 展 子 李白詩
川 島 喜 代 美 題松汀驛
杉 山 幽 翠 渡揚子江
岡 田 浩 子 宴辺將（張喬）
今 井 幽 耿 送韋評事（王維）
沓 掛 和 絵 かな（かぎろひ）

落 合 正 峰 五言絶句
鈴 木 美 翠 五言絶句擬送別（王瑤湘）
吉 本 寿 峰 五言絶句
三 津 木 芝 影 陸游詩沈園懷旧
八 島 幽 月 張若虚詩
関 春 宵 寒山詩
川 越 秋 聲 黄道周詩
宮 坂 四 雄 陶淵明詩
菅 原 秋 峰 孝経
丸 山 美 津 江 夕月夜（和歌一首）
増 田 芝 暎 秋の夕暮れ（和歌一首）
河 本 清 子 白雲
粂 芳 扇 石の間に
山ノ井恵子 ほととぎす
伊 藤 青 光 和歌二首
新 井 青 谿 夜別韋司士得城字
大 矢 鳳 城 南遊雜詩
大 笹 房 子 滴翠
中 村 小 葉 野望
黒 坂 春 香 和歌二首「みちのくの」
番 場 青 秀 山家集
吉 田 照 子 若山牧水「和歌三首」
矢 追 貞 子 ほととぎす
浅 野 信 子 神が木
前 田 和 子 有明の月
平 間 愛 子 和泉式部続集切臨書
守 永 喜 久 子 みよしのゝ
清 水 金 次 真鶴岬と三つ石
上 村 仙 石 八木重吉の詩 素朴な琴
小 泉 恵 俊 讃美歌 神の招き
問 馬 敬 竹 北原白秋詩 三崎城ヶ島
三 国 郁 子 田中冬二の詩より
増 田 み え 子 伊東静雄「八月の石にすがりて」
澤 田 剛 明 山頭火句（炎天の稗をぬく）
国 谷 寿 谷川俊太郎
水 野 裕 子 蒲原有明の詩「秋のころ」
土 田 武 子 雪国の炉ばた語り
大 村 雅 子 佐川光治の詩
森 山 可 余 草野心平詩集「石」
渡 辺 美 代 子 富山氷見音頭の一節
山 際 彩 華 臨、源氏物語絵巻詞書
安 田 達 子 しあわせ
小 林 千 幸 おやすみ

穂坂美代子 黒ン坊
 綿貫吉野 素朴な夢
 篠崎泰子 追想
 林久美子 巷に雨の
 大木銀子 大岡信、人は流体ゆゑの
 中村よゑ どんこ
 宮本照子 村山槐多、一人の美少女に
 萩村迎与 無題（八木重吉詩）
 関根玄道 山村暮鳥の詩、馬
 本田裕子 くずの花
 御園順子 松蟬
 大木明子 浅野章子「横浜駅西口・東口」
 篠原圭子 李賀詩
 立神光韻 劉耆緯詩
 中村蒼汀 劉禹錫詩
 中村暁雲 杜甫詩
 小川如泉 李頎詩
 杉山梅波 杜甫詩
 田中まり子 高適詩
 増田浩子 和歌
 新井素光 枕草子より
 木戸梢光 古今集より 恋歌
 黒田香影 万葉花譜 夏
 郷治春彩 伊勢物語
 高橋蘭徑 和歌10首
 吉川蕉雨 古今和歌集より
 高崎浩子 和歌十四首
 明石蕙州 万葉歌二首
 岡本蘇心 藤原俊成の歌
 横山蕙静 古今集より 恋の歌
 秋重蕙永 齊藤茂吉の歌
 秋山尚悦 新古今集の歌
 田草川雅子 玉藻かる
 増田八重子 麗花集より 春夏秋冬
 河村康子 三十六歌仙
 平田十臥 貫至詩
 園田祥陽 黄山谷詩
 中溝右暉 李白詩
 松尾廣子 白楽天詩
 佐藤緑羊 蘇東坡詩
 安部梅陽 杜甫詩
 山田恵茜 夜（杜甫詩）
 春山右滂 陸游詩

山本右高 白楽天詩
 土屋右泉 白楽天詩
 大木修葉 古風（李白詩）
 木須青苑 杜甫之詩
 本田明陽 蘇東坡詩、赤壁賦
 滝口伸葉 南陵別兒童入京（李白詩）
 橋本抱葉 白楽天詩
 渡辺游香 石鼎茶香
 濱崎道子 千字文
 城所良佳 唐詩
 上遠野紅舟 黃庭堅の詩「沐岸置酒贈黃十七」
 長谷川栄子 赤壁賦
 栗橋東崖 飲中八仙歌
 岡田耕作 袁氏世範
 室橋幸子 唐詩
 奥翠月 金冬心（許渾詩）
 大塚翠峰 瑞函之詩
 江川青澗 傳山之詩
 和氣清堂 杜甫詩重過何氏五首
 鈴木静耕 行次昭陵
 野口翠香 崔五丈図屏風賦得鳥孫佩刀
 田村秀亭 儲光義詩
 若林花泉 唐詩（咸陽城東樓）
 渋谷莊江 「秋興八首その一」杜甫作
 小山莊雪 惜花歎
 安藤彩苑 唐詩
 田所芳子（寿泉） 漢詩
 石関富士子 杜審言詩
 小山揚雲 唐詩
 神藤松代 李頎詩
 増田溪雪 芭蕉俳句
 本間千枝 万葉三首
 高橋松道 杜甫詩
 金子碩峰 読山海經
 石塚正子 白秋詩 鮎鷹
 加藤純子 唐詩（五言排律）
 品川四郎 桂樹の
 大山青高 （杜詩）同諸公登慈恩寺塔
 中澤春柳 唐詩
 田邊貴翠 白居易詩琵琶行
 衣袋蒼玉 李商隱詩
 嵐小丘 削觚慮印存
 鎌田佟処 陸游詩

近 藤 粹 処 陸遊詩
 関 口 蘭 香 王維詩輞川積雨
 今 井 柳 潭 王維詩
 篠 原 湖 松 姪百合塔
 谷 口 春 泉 杜甫詩
 菅 野 栖 処 項斯詩
 武 田 瞳 処 李頎詩
 佐 藤 柚 処 黄庭堅詩
 石 田 桐 処 陸遊詩
 菅 野 堯 処 杜甫詩曲江
 尾 崎 静 鳳 韓愈詩 南山
 紫 岡 明 洞 蘇軾詩（初秋子由に寄す）
 森 草 坡 李賀詩
 安 田 蘭 英 白居易詩
 吉 田 翠 山 温庭筠詩
 矢 追 章 子 流
 三 原 和 子 月白し
 嘉 島 宏 子 杜甫詩3首
 橋 本 芳 雪 秋の夕暮れ
 河 合 伸 泉 杜甫詩
 入 澤 八 祥 杜審言五言律詩
 栗 原 笙 如 蘇東坡の詩
 植 村 三 洲 宋李至純座右銘
 林 如 巖 杜甫詩
 吉 村 瑞 峰 白居易詩 漢字多字数作品
 宮 川 勝 美 伝紀貫之高野切第三種
 山 本 花 聲 唐詩

<写真>

埜 渡 光 雄 疾走
 葛 西 清 悦 川辺の生活（組）
 北 本 幸 一 傘焼祭（組）
 渡 辺 時 一 ファンタジックカラー（組）
 岡 本 高 明 暮色
 矢 野 和 夫 ポッカさん
 関 勇 泥まつり（組）
 堀 坂 和 夫 「球を追って」（組）
 亀 井 貴 司 インダスの仏教遺跡（組）
 立 川 昭 彦 王者のはばたき（組）
 伊 藤 和 足 白鳥の詩
 新 井 利 行 たまらなくティスティー
 木 村 久 子 茶屋裏（組）

洲 辺 秀 男 静流
 吉 田 光 ある結晶
 仁 平 廣 なかよし
 後 藤 陽 吉 念願のハイキング（組）
 梅 田 章 あるローカル線（組）
 藤 井 薫 わしがきばらなだしかん
 鵜 殿 賢 一郎 獅子舞（ミナト祭り）
 針 田 正 道 秋の酒沢（長野 穂高）
 〃 神田祭「ミコシ宮入り」
 〃 熱狂浜降祭
 木 村 延 男 夏季の色（ケシ）
 〃 夏季の色（オダマキ）
 今 井 稔 語らい
 村 上 昭 子 MOVEMENT
 青 木 繁 雄 郷愁の旅より（木曽、奈良井宿にて）
 横 山 保 光 TONIGHT 馬車道（組）
 本 間 英 夫 初冬（組）
 藤 井 健 鎌倉の秋（光則寺）
 〃 鎌倉の秋（永福寺跡）
 〃 鎌倉の秋（円覚寺）
 〃 鎌倉の秋（御霊神社）
 山 本 裕 京のおんな
 佐 藤 誠 治 山里の子供達
 露 木 修 一 曼珠沙華咲く頃（組）
 中 村 直 敬 顔
 河 原 辰 雄 金色の海
 矢 澤 晴 夫 秋光乱舞
 榎 田 守 廃する魚村
 石 谷 一 郎 曼陀羅への想い
 坂 倉 哲 光
 中 川 昭 人 富士雲の饗宴（組）
 小 室 寛 花暦
 板 垣 久 史 行雲
 奈 良 巖 A TURNING POINT T₂（組）
 町 田 昌 弘 Coke の貌
 萩 原 新 八 カシミヤの心（srinagar）（組）
 佐 藤 健 一 涼風
 越 川 敏 子 パガンの朝（ビルマ）（組）
 清 水 一 浪漫灯籠（組）
 新 井 義 弘 乙女文楽
 片 岡 順 一 基地の視点
 わた 辺 き ょう 子 「帰り道」

■ 審査経過

〈日本画〉

今年の日本画の搬入点数は105点。昨年は全国公募で111点なので、県内だけの点数としては多く、厳選であつたわけである。しかし、出品者の中には1人で、2点、3点と熱意ある出品作も多かったようだ。作品の生命を決めるものは、その「質」であるから1点でも良いものは入選となつたわけである。中には三点全部選に外れる方もあつたが、致し方ない厳しいコンクールの現実ではある。

毎年の決められた壁面空間があり、入選作品も28点程度以上は並べられない事実もあつて、従つて審査も4回、5回、6回と作品点数をしぼるために歩き、慎重に、しかも俊烈にといった審査員の苦心を感じた。しかし結果から見て28点の少い入選の個々の作品は、やはり途中多かった作品群と比較するとずっとそれぞれの作画の裏側に、はっきりとした作者の言わんとする存在理由も感ぜられたし、よかつたのではないかと思われた。神奈川県展の一つの特徴かも知れない。

さて、作品について全般に感じた事を述べると、20代30代と若い人々の入選が大半で、今日的で素直な心象的具象作品に爽やかなものを感じた。受賞の候補作は四点で、平岡栄二氏の作品は重厚なる日本画で、何かに向つて祈りを捧げる3人を3つの枠の中に描き、1点にまとめたもの。背景になるペニヤ板に一工夫の欲しさはあつたものの昔の仏画の三尊仏の形式を思わせた。井出文洋氏の風景作品は、現代のグラフィックな薄いつ傾向の反対にある素朴な姿勢のもので、特に自然大地を遙かにダイナミックに表現しようとする体当たりで若々しさを感じさせたが、色彩にややにがりがあるのが惜しい。長尾良範氏は、今日的生活感情を面白く表現して自由であり、喧騒の中の孤独、音や時間を実験的に表わしたかつたそうだが、それも軽薄の一手手前で止めているのがよい。照井登紀子さんのMy favorite thingsは、文字通り、私の生活空間の中での好ましい事物を小さい画面ではあるが、女性らしい感傷、執着等を匂わせつつさりりと明解にまとめていた。日本画の材質も生かされたが、今一つ心理的深さが出て来たらと思った。そのほか心に残つた作品として、金井ノリオ氏の熱っぽい色彩、香野ルミ子さんの木馬の童心、佐藤 潔氏の「ノートより一月」、等々力克彦氏の「メカニズムの断層」、やや描きつ放しだが小林千里さんの実験的で大胆な画面、森川典子さんの花は華麗だが造形性が欲しい。大都会の一隅を俯瞰的に象徴化しようとする小島孝彦氏の力強さなど今後に期待する。

日本画の奥の深い世界には、内面の表現に適した材質から来る性格があると私は思う。その特質を自由自在に駆使するのは、はなはだむづかしいが、長い修業の中から一つの光明を見出して行きたいものである。

近藤 弘明

- 搬入点数 106点 (76人)
- 入選点数 28点 (28人)

〈洋画〉

第21回展は、全国的な規模で開催された第20回展という節目を経過して初めての公募であり、その動向が注目されたが残念ながら全般的にやや低調であったと言わざるをえなかった。特に洋画部門は活気に乏しく、搬入点数も近年になく少ないものとなった。

ちなみに最近5ヶ年間の応募点数を紹介してみると、第17回は646点、第18回668点、第19回482点、第20回735点で、今年の第21回展は318点である。応募点数の少ないことはやはり淋しい。コンクールは競い合うことであり、それによって良質の作品を発掘しようとするのだから、応募点数の少ないことは反省しなければならない重要な材料であることに間違いない。もちろん応募点数の量だけが問題でないことは自明だが、内容的に低調感のぬぐえなかったことも事実であった。作品公募の時期が8月であったことが、中央の展覧会が秋に集中していることと考え合わせ、作品の制作上出品しにくい理由の一つであったかも知れないし、搬入日があいにく荒天であったことにも若干の原因があったであろう。

もちろん、こうした傾向のなかでも注目すべき作品がなかったわけではない。特に洋画部門における大きな救いは、鶴見厚子「夢の質感」が大賞を獲得したことであった。鶴見厚子はかつて受賞こそしなかったが、誠実な作品を毎年出品し続けてきた。たしか第18回展の審査評にも取り上げたことを覚えている。受賞作品には主題性を触覚的な絵肌に適確に結晶しようとする努力が見られ、地味ではあるがじわつとした訴求力があつた。また近代美術館賞の星兼雄は連続入賞であり相変わらず安定した力量を示した。「MY MUSEUM」には新しい試みが伺え近い将来に何かを期待できそうである。美術奨学会賞の石井誠の抽象作品「IN THE SKY」もさわやかに詩情をうたい上げた佳作であった。なお、賞候補に上った塩川高敏「樹映(暦)」や萩原和子「休日」など端的な表現力に弱い難点はあつたがそれなりに私の印象に残った作品である。

第20回展の審査評に、匠秀夫氏は「洋画部門に限らず、他の部門にも共通した状況のようであつたが、県展としては、良き刺激、つまり井の中の蛙の非力さの実物教育といった面をはからずも示すことになった。」と述べ、全国公募の結果入賞を大部分県外の作家にさらわれたことについて、県下の作家への警鐘と奮起をうながしていたが、今回は残念ながら氏の期待に答えることができなかったようである。第22回展を期待したい。

國領 経郎

- 搬入点数 318点 (183人)
- 入選点数 63点 (63人)

〈版画〉

神奈川県は、版画活動も盛んのものである。たしかに、版画作家の数も多く、国際的に活躍している著名な版画家たちが在住している。また、県立美術館でも、版画の展示がしばしば開催されているし、県民ホールでは国際レベルでの版画の展覧会が、毎年企画されてきた。このように恵まれた背景のもとに、神奈川の版画の層は厚く、そのレベルも高いといつていい。今回の審査にあたっても、その感は深かつた。

46名、118点と応募点数は、例年よりは低かつたようであつたが、内容は質が高く技術的にも優れている作品が、非常に多かつた。版種は、多岐にわたっていたが、新しい独創的な意図をもった作品、奇をてらつたような前衛性をしめすものはなかつた。オーソドックスな作風では、技術的な熟練度と表現内容の確実さということが、重要視される。一方では、ややもするとマンネリズムに陥り、表面の綺麗ごとになるといふ弊害ももっている。

審査にあたっては、制作の意図が適格にしめされたもの、創造的な感動がこめられている作品を中心に進められた。同時に、版画のもつ技術的な習練と刷るという行為が判然としめされているものが、選択の基準となつた。

入賞した作品は、4点とも高い水準をしめすものであつた。天野純治の「EDGE-85-K-8」は、清浄な色彩をもった大きな空間が強靱な構築となっている抽象作品である。写真からの製版による藤田修「Painter's Work Shop」は、幻想的なイメージと特異な作画によつてい。大正時代の風俗画を思わせる杉山一夫「どぶ板シリーズ」は、いささか手慣れすぎた感があつたが、独自の表現で注目される。日向野桂子「今日はお元気」も、カルカチュアの一つの心境をしめしていた。新しい版画の世界である。これからの活躍が期待される。

版画部門の応募者の顔ぶれが、固定化してきたように思われ、一寸と残念であつたことを附記しておく。

柳生不二雄

- 搬入点数 118点 (46人)
- 入選点数 31点 (31人)

〈彫刻〉

ジャンボ機墜落の興奮さめやらぬ真夏日の午後、8月13日。彫刻部門審査員の一人として審査会場に入った。まず目に入ったのが、立体造形部門のゴミゴミとした作品群であり、彫刻部門はというと、広い会場の片すみで、何とも淋しい限りのものであった。昨年の盛大な作品群を思い出し、今年はさらにという思いでいたが……。そこには小手先だけのものやサラリーマン的作品、趣味の世界から一歩もぬけきらないものばかり。その中で私の眼に本物と映ったものは僅かに2点であった。梅田氏の石彫、杉氏の木彫。要するに「彫刻」という言葉の概念に、とらわれ過ぎて最も大切なものを、見失しなっているような気がした。そもそも私自身彫刻部門と立体造形部門とに分ける意味がよく理解できない。もっとジャンルを超えた普遍的なものが、あるのではないだろうか。自分自身の信念を普遍的なかたちにまでたかめてゆけるような作家であって欲しいし、私自身もそうでありたいと思っている。

もつと自由に、もつと楽しく、愛とまごころと責任を持って。

河原 明

- 搬入点数 33点 (27人)
- 入選点数 7点 (7人)

〈立体造形〉

昨年は第20回展を記念して全国公募だったが、今年は県内だけの公募にもどったせいか、県展全体でも立体造形部門でも応募点数が少し減った。それでも、立体造形は神奈川県展の特色を示す部門で、例年他の地方展にはみられないほど水準の高い作品があつまる。ただ今年の応募作品を通観すると、尖鋭な観念にとりくんで造形の限界をはみ出しそうな、危うい瀬戸際を感じさせる作品が影をひそめたのは、いささか残念な気がする。

ところで、彫刻とは別に立体造形の部門を設けるには、それなりの歴史的事情があつて、それが前述のように神奈川県展の特色さえ形づくってきたのだが、こんなに細分化されたジャンル別に、あたかも別々の審査基準があるかのように審査がおこなわれるのは、かえって現代美術の動向にそぐわない。わたしの持論はジャンル別撤廃、統一審査であつて、近い将来そういう方向にむかうように、出品者や関係者のあいだに論議が高まることを期待したい。

立体造形部門の入選は、25人30点であつた。そのうち賞候補に選ばれた作品について、短い感想を記しておく。準大賞を受賞した松本憲義の《原子心動Ⅸ》は、褐色に錆びた鉄のパイプや棒を組みあわせて、軍艦のように力づく構築的な世界をつくりあげている。特別奨励賞に選ばれた平野米三の《時空》は、大きな木のパネルに楕円状の鉄線を釘でつるし、楕円の中央から棒のようにつきでて下に垂れる鉄線を配している。これらの鉄線がモーターで緩慢に動くのだが、その動きのなかで一瞬、楕円がふいに円になるときがある。このアイデアが新鮮で、ユーモラスで、しかも説得力があつて、今回の出品作中の出色といえる。また、入賞は逸したが、広田美穂の《サバンナの夜》《そこに立っていた》《みんなあつまれ》は、さまざまな材質をちりばめ、どぎつい色彩を施した、巨大な人形（ひとがた）ともいうオブジェ群で、プリミティブであるとともに幻想的な迫力がある。赤嶺清順の《作品11》は、流木のようなあらけずりの素木を組みあわせて、モニュメンタルな力動感を生みだしているが、やや力まかせ、成りゆきまかせで、細部にもつと神経を通わせてほしかった。

そのほか、窪田俊三と渡辺邦夫の作品も論議にのぼつたが、いずれも昨年の受賞作の方がすぐれているため、賞候補からはずされた。

針生 一郎

- 搬入点数 69点 (53人)
- 入選点数 30点 (25人)

〈工芸〉

第21回神奈川県美術展の第1期展（工芸・書・写真）審査は、8月14日（水）午前10時から9名の審査員によって神奈川県立県民ホールギャラリニーで行われた。

今回の工芸部門には212点の応募があったが、厳正な審査の結果、119人による121点の作品が入選と決定したのである。

一応今回の審査経過を説明すると、当日の午前中は1から212の番号を列記した投票用紙を各審査員に配り、夫々審査員は一つ一つ作品とその番号を確認しながら、投票用紙の番号の横に、その作品を入選させるべきだと思う場合は○、落選させるべきだと思う場合は×の記号を付けて提出する鑑査を行った。

その結果、各作品は9名の審査員によって幾つの○を得たかの集計が出たわけだが、1つの○を1点とした場合、9点(18)8点(28)7点(27)6点(23)5点(24)4点(21)3点(17)2点(17)1点(20)0点(17)という数字が出た。そこで0点と1点の計37の作品は落選とし、一応5点以上の過半数を得た計120の作品と、過半数を得られなかった2点から4点の作品とを別々に置いてから、さらに一つ一つを話し合いと挙手によって再審査した。すると、意外にも入選圏内にいた作品が今度は過半数の賛成を得られず、逆に落選圏内のものが浮上することもある。119人による121点の入選作品が午後3時30分までに決まり、またその中から8名の賞候補作品も選抜された。

なお、今回も2点以上応募し、2点以上入選した人には、2名の人をのぞいてどちらか1点に絞らしてもらったことをご諒承いただきたい。一人でも多くの人に入選してもらいたいからである。

大賞審査は午後3時30分から書・写真の部門も加えられて5名の審査員で行われたが、工芸部門では、トキワ松学園短期大学で金工を学んでいる21歳の石井理恵作「動止 一瞬からの」（金工額装の平面造形）が準大賞に輝き、横浜市金沢区在住の村田則子作「内海の彩」（額装の染色画）が県議会議長賞を獲得したことは喜びにたえない。また、美術奨学会賞は、鎌倉市の市原富士子作「ジューリニー」（金工）、横浜市の西山美恵子作「雪の結晶」（七宝壁面/パネル）、川崎市の田中道子作「海に祈る」（人形）が受賞し、特別奨励賞は、横浜市の佐藤登志子作「崩」（人形）、横浜市の木下もと子作「筭文細着物」、川崎市の八重森千賀作「印（しるし）PARTⅢ」（皮工）が受賞している。

総ての受賞者が女性だけというのも珍らしいが、陶芸の受賞が皆無であったことは何とも淋しい限りであり、奮起してもらいたい。

吉田 耕三

- 搬入点数 212点（173人）
- 入選点数 121点（119人）

〈書〉

本年度の出品点数は昨年度が全国展であった関係で35点の減少をみましたが、本年度の作品の特色としては仮名作品に著しい進歩がみられます。

本県は仮名の指導者が非常に少なかったのですが、県美術展書部門としてこの数年仮名作品の充実につとめてきました。本年度の作品を見るとそのことがようやく実を結んだ如くに感じられます。大字仮名、小字仮名の部門においても著しく進歩したことは審査員皆等しく認めるところであります。

また、近代詩文においては大きな影響力を持った、青木香流君の死がこの部門に一抹の不安を感じさせたけれども、作品面に於いてはむしろ旺盛な意欲が見えて誠に喜ばしい次第です。

漢字作家は本展の主流と、過去に於いては目されていましたが一応その部門の卒業をみたので、本年度はややさびしさを感じるが、いづれの部門においても用材の研究に今一段の努力を望みます。特に漢字においては師風追隨の作品が多く見受けられるのは誠に遺憾であります。この点は将来への課題として、漢字作家の堪ゆまない努力を切に希望します。

以上、今回の審査に当たっての所感ですが、選外の浮目を見た方々の作品の中には相應の出来映えのものもあり、数の制限の中に於てはやむなく落さざるを得ない苦渋の審査であったことも附記しておきます。

殿村 藍田

- 搬入点数 273点（273人）
- 入選点数 191点（191人）

〈写真〉

お祭り騒ぎの前年に比べて、今年は応募数が減じて寂しい面もあるが、原則的な県展として、すっきりした。見せかけの繁栄より、真実の姿が大切だ。

今回、県展大賞（工芸、書、写真3部門）に輝いた石渡四郎（横浜）の「硫黄島の再会」は、硫黄島で壮烈な死闘を交えた米軍と日本軍の生き残りの兵士たちの、40年ぶりの再会のセレモニーが、今年の2月に開催された。老兵の一人として参加した石渡氏の作品が、県展大賞になり、彼の40年ぶりの平和勲章となった。当事者はとかく詠嘆調になりがちなのを、よく抑えて、淡淡とルポルタージュした。カトリックの神父の米兵と、僧侶の日本兵の二人のかたい握手は、正に菊池寛作「恩讐の彼方に」である。

美術奨学会賞の青地則明（鎌倉）の「歩」は、砂漠を辿る親子とロバの、限りなく遠い道がロマンチックに描かれている。映画のラストシーンの一コマを見るようだ。山田譲巳男（茅ヶ崎）の「浜降祭」は、技術的には満点の作品であるが、この作家の今後の課題は、いかに主観的な見解をテーマの中に入れるかに、かかっていると思う。

矢部千代吉（横須賀）の「一休み」は、農夫が一服しているスナップ・ポートレートで、なかなかいい表情を纏んでいる。笑っているからいい表情、泣いているからいい表情と言った単純なものではなく、農夫の表情から、農村の雰囲気は浮び上ってくるからすごい。田辺和郎（横浜）の「都市人形」では、人形にも表情があるのを知る。飾り窓に納ったマヌカンの表情をうまく使って、ほのぼのとした都会の郷愁を漂わせるのに成功している。農夫とマヌカンは、全くコントラストな題材だが、この二つをじっくり眺めていると、いろいろな示唆する言葉が湧いてくる。

特別奨励賞のデニス・ウェバー（横浜）の「ミクロネシア・ディアフター」は、南太平洋の海の青さが目にしみる。群像の描写もいい。外国人と縁の深い神奈川県で、外国人の応募がなかったのが不思議であった。26歳のアメリカ人のウェバーさんの入賞を欣びたい。山本潤一郎（横浜）の「真夜中の嬌艶」は、ヨコハマのキャバレーの風俗描写が的確で、うまい。美しい工口チシズムは、展覧会の華だ。吉川弘（横浜）の「基地開放の日」は、日米親善のために催された基地の祭りを、面白くまとめている。金子仲司（横浜）の「紅光」は、つねに光は重要であるが、特に抽象の世界では、光を基調にすることを忘れてはならない。

奥村 泰宏

- 搬入点数 236点（107人）
- 入選点数 106点（60人）

■ 大賞受賞者

第1回	40年度	大森運夫「九十九里」《日本画》	第18回	57年度	小泉正彦「冬の木」《洋画》
第2回	41年度	廣瀬義男「作品Ⅰ」《洋画》	第18回	57年度	井上隆敏「イグナドバ選手」《写真》
第3回	42年度	垣内治雄「坐る」《彫刻》	第19回	58年度	井上 麦「土の系譜」《彫刻》
第4回	43年度	川村直子「'69-A・'69-B」《洋画》	第19回	58年度	茶木静谷「竹聳松影」《書》
第5回	44年度	山井イク夫「Lady70-1・2」《立体造形》	第20回	59年度	東谷武美「日蝕F」《版画》
第6回	45年度	伊藤 彬「天涯巡礼」《日本画》	第20回	59年度	西 雅秋
第6回	45年度	大久保利園「Straw」《工芸》			「CASTING VIEWPOINT」《野外彫刻》
第6回	45年度	西川万象「廬子諒詩」《書》	第20回	59年度	林 巨「クリスタル大鉢“洞”」《工芸》
第6回	45年度	加賀谷武男	第21回	60年度	鶴見厚子「夢の質感」《洋画》
		「にっぽんNONSENSE ZONE」《写真》	第21回	60年度	石渡四郎「硫黄島の再会」《写真》
第7回	46年度	中西新太郎「落日」《洋画》			
第7回	46年度	島津碧崙「寒山詩」《書》			
第7回	46年度	大谷正夫			
		「師ミス・ザンダー(フェリス女学院)」《写真》			
第8回	47年度	佐々木英夫「人間の風景1・2」《版画》			
第8回	47年度	林 良達「騎士」《工芸》			
第9回	48年度	河原 明「蜻蛉」《彫刻》			
第9回	48年度	石川充宏「Girl in chair」《工芸》			
第10回	49年度	大山 鎮「語り」《日本画》			
第11回	50年度	鎌田恵子「Lost my way」《工芸》			
第12回	51年度	泉谷淑夫「愁傷のモニュメント」《洋画》			
第13回	52年度	井上 麦「黒の女-'77」《彫刻》			
第14回	53年度	坂田一之「MIRROR」《立体造形》			
第15回	54年度	前本利彦「暗い部屋Ⅰ・Ⅱ」《日本画》			
第15回	54年度	川口流坡「菅原道真詩」《書》			
第16回	55年度	和久井Who「HANGING」《立体造形》			
第16回	55年度	市原欣一「ふるさと」《写真》			
第17回	56年度	坂井彰夫「SEISHO」《彫刻》			
第17回	56年度	高木参平「BODY」《工芸》			

■ 第21回神奈川県美術展委員会組織

● 顧問

小 倉 遊 亀
中 島 清 之
山 本 丘 人
小 山 敬 三
斎 藤 義 重
圓 鋸 勝 三
高 田 博 厚
各 務 鑛 三
蓮 田 脩 吾 郎
殿 村 藍 田
比 田 井 南 谷

● 委員会委員

委員長
上 野 豊

副委員長
李 家 正 基
神 戸 由 雄
菅 原 寿 雄
匠 秀 夫
土 屋 利 保
三 上 次 男
吉 田 耕 三
弦 田 平 八 郎
加 藤 東 一
國 領 經 郎
斎 藤 寿 一
井 上 信 道
斎 藤 義 重
各 務 鑛 三
殿 村 藍 田
奥 村 泰 宏

● 大賞・準大賞選考委員

〈日本画・洋画・版画・彫刻・立体造形部門〉

相 笠 昌 義
井 上 信 道
加 藤 東 一
國 領 經 郎
斎 藤 義 重
匠 秀 夫
弦 田 平 八 郎
針 生 一 郎
三 上 次 男
柳 生 不 二 雄

〈工芸・書・写真部門〉

奥 村 泰 宏
各 務 鑛 三
田 中 雅 夫
菅 原 寿 雄
殿 村 藍 田
吉 田 耕 三

● 審査員

〈日本画〉

片岡球子
加藤東一
近藤弘明
弦田平八郎

〈洋画〉

倉田公裕
國領經郎
勝呂忠
匠秀夫
野田弘志
宮崎進

〈版画〉

相笠昌義
磯見輝夫
栃木順子
馬場栲男
柳生不二雄

〈彫刻〉

井上信道
河原明
桑山賀行
三上次男

〈立体造形〉

斎藤義重
羽生真
針生一郎

真板雅文

〈工芸〉

各務鑛三
国行道子
佐野登志子
篠和子
鈴木三成
鐸木能子
長谷部満彦
林亘
松井三郎
吉田耕三

〈書〉

岡田扇香
川口流坡
志賀正枝
島津碧崙
菅原寿雄
殿村藍田
丹羽蒼処
船本芳雲

〈写真〉

五十嵐英寿
奥村泰宏
岸哲男
田中雅夫
藤田直道

● 実行委員

〈日本画〉

浅見信夫
大山鎮
能島和明

〈洋画〉

阿部和美
大里光春
阪本文男
白鳥三郎
鈴木雪子
鈴木隆夫
吉崎道治

〈版画〉

柴田昌一
塙太久馬
府川誠

〈彫刻〉

金子典義
垣内治雄
丹羽武雄
陶山定人

〈立体造形〉

八島久恵
鈴木豊男子
中島けいよう

〈工芸〉

青野武市

江刺栄一
江成房子
小林貢
小山岑一
芝山吉邦
松本祐昌
望月正子
山下了是

〈書〉

竹田悦堂
伊奈翠陽
四宮撫琴
仙場右羊
星光陽
矢島撫周

〈写真〉

阿部タモツ
鈴木健夫
高橋勤
中島倍三
野沢喜七
三井文一
吉田健吉郎

つうすとギャラリー

〒231 横浜市中区真砂町3-33
関内駅前横浜センタービル4階
電話 045(651)1431(代)・045(662)2937(直)

貸画廊

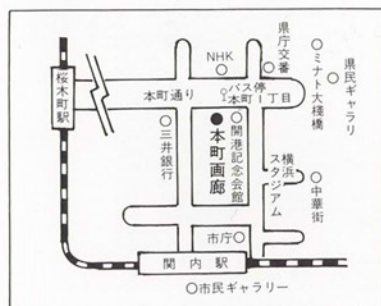
壁面31m150号可

本町画廊

横浜市中区本町1丁目7番地

〒231 本町1丁目下車 東ビル1F

☎045-212-2254



開港記念会館・県庁交番隣



絵と陶芸

くれせんと美術店

ヨコハマ画廊組合加盟

横浜市中区弁天通1-19

〒231 ☎(045)201-8850



素顔のピカソにあえる森。

ピカソ館

彫刻の森美術館 (休館日なし)

箱根登山鉄道・彫刻の森駅下車徒歩2分

神奈川県足柄下郡箱根町二の平 TEL.0460-2-1161

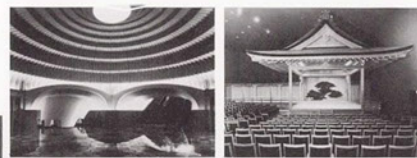
庭園と日本古陶磁
箱根美術館

休館＝毎週木曜日（祝日は開館）年末・年始
開館時間＝9:30AM～4:00PM（入館は3:30PMまで）
観覧料＝大人500円 高・大学生300円
小・中学生200円 団体割引は20名以上
住所＝神奈川県箱根町強羅1300
TEL(0460)2-2623



壮大な建物、ユニークな施設
MOA美術館

休館＝毎週木曜日（祝日は開館）年末・年始
開館時間＝9:30AM～4:00PM（入館は3:30PMまで）
観覧料＝大人1,000円（特別展は1,300円）
高・大学生700円 小・中学生500円
団体割引は20名以上
住所＝静岡県熱海市桃山町26-2
TEL(0557)84-2511



Modern and Contemporary Art

企画展 県美術展受賞者シリーズ

- 井上 麦個展(彫刻) 10/20~10/29
- 東谷 武美個展(版画) 11/25~12/7
- 藤 檉 正個展(写真) 12/8~12/14
- 鏑 本 純 一個展(油彩) 61 5/15~5/24
- 高 垣 秀 光個展(版画) 61 10/6~10/11
- 五島三子男個展(版・立) 61 11/3~11/8
- 加藤安佐子個展(油彩)
- 鶴 見 厚 子個展(油彩)
- 利 涉 重 雄個展(版画)
- 李 赫個展(彫刻)

彩林畫廊

Sairin Gallery

●常設・企画画廊

●オープン・スペース

壁面総延長=27.50m

天井高=2.70m

面積(床ACフロア)=45.70m²

1日 ¥28,000(年内申込)

顕賞制を設けています。

〒231 横浜市中区日本大通60(朝日生命ビル1F) ☎045(651)2524



UCHUDO

●洋画材料●デザイン用品●額縁

あなたの創作欲を満たす品ぞろえが自慢です。

ALL OF ART MATERIAL

宇宙堂

横浜店 横浜ステーションビル・シアル4F TEL.045-311-2770

蒲田、仙台、千葉、津田沼、船橋、荻窪、静岡、松戸、他全15店舗

芸術家たちの、ひそかな楽しみ。

自信の作品をリアルに伝える、

ポストカード。

自信の絵画作品をプリントにして、そのままにしておくなんてもったいない。

東洋現像所では、楽しいポストカードづくりをおこなっています。

あなたのお気に入りの作品をポストカードに。

メッセージや住所・氏名も、活字または手書き文字で入れられます。

オリジナルはがきで新鮮なお便り。きっと喜ばれますよ。

1コマから30枚以上 1枚80円 1コマから10～29枚 1枚90円



大切な絵を丈夫な写真でバッチリ保存、

ライブプリント。

芸術の秋、すてきな絵が描けましたか。

大切な作品は、やっぱりプリントにして残しておきたいものですね。

そこで、東洋現像所のライブプリント。

写真の表面にクリアな被膜をほどこして、水や油、スリ傷などから守ります。

カビや変退色にも強さを発揮、長期保存に最適のプリントです。

キャンペーン価格 1枚50円



*尾上町交差点より横浜スタジアムへ向かって30m右側。

各種カード・現金・卸・下取交換・ローン取扱店*

ご存知ですか?
月世界の写真は
すべてハッセル
から生まれてま
した。

★選択の時代にふさわしい逸品を厳選!!

総合輸入カメラ専門店



★心豊かなふれあいの店★

総合輸入カメラ専門店

千曲商会

●上野店 ☎110 / 台東区上野6-9-24 / ☎03-833-1037代 ●横浜店 ☎231 / 中区尾上町3-43 / ☎045-651-7437代



FAUCHON

フランスを鑑賞 フォション「アップルティ」

フォションはパリ・マドレーヌ広場で味を誇る
高級食料品店。紅茶・コーヒー・スパイス・パン・
ケーキ・瓶詰・缶詰…そのひとつひとつにフランス
の味の文化が集約されています。

特に紅茶では香りの高いアップルティが人気、
タカシマヤだけでもおとめいただけます

●フォション・アップルティ (250g) ……3,500円

 **Takashimaya** YOKOHAMA

AUTUMN & WINTER

美しい、感動詞。 ニナリッチ

パリのエレガンスを秘めて 感動あたたかな
ファッションを創りだす……………

この秋 知性が香るでしょうか ロマンが
ひとつ 実るでしょうか



YOKOHAMA イセプラ MY TOWN



横浜 松坂屋

ニナ リッチブティック 本館3階

いま、私はラブソング。

INFORMATION JUNGLE

●NY ラスト・ホエッツは15年前からラブをやっていた。ビル・ラズウェルは本気でこの過激集団を復活させようとしている。●WASHINGTON D.C ホワイット・ハウスを黒く塗り！古くて新しいダンス・スタイル、一曲20分のゴー・ミュージックは、ラジオでは聞けない。●PARIS フランスを席巻したアフリカン・グルーブ・トゥーレ・クンターが横浜スタジアムで見れる。それもササン・オールスターズといつしよに。やはり横浜はたいした街なのだ。●LONDON ジャズで踊ってしまったクラブ・シーンがおもしろい。だから、ワーキング・ウィークのようにJAZZをひびきかた若いグループが生まれてくる。●KINGSTON ジャマイカが四国よりも小さい島たということを知っていたらどうか。ラヴァース・ロックを聞きながらの誰もいない秋の海、一人寝の夜、空っぽのまの助手席は厳禁だ。●TOKYO テンバーから来た女の子は吉川晃司のホスターを部屋に張っている。もちろんシングルも買った。世界一売れているナイル・ロジャースが、吉川晃司をフロデュースするのも間近かもしれない。●SYDNEY ここが退屈な街だなんて誰にも言わせない。バンクの正統は、クラブ・ディで埋めつくされた南半球のNY、シドニーで立派に生きているのだ。●YOKOHAMA 日本よりもオーストラリアでうけているサンディ&サンセッツを横浜の名誉市民バンドにしてしまおうなんてどうだろう。そして言うてしまおうのだ。「東京のヤツ、わかつてないね」と。●LONDON 「僕は30歳まで生きないだろう」その言葉どおりに消滅したマーク・ボラン。レザードイスのリリースのなかでT・R・E・Xは充分すぎるほど1985年のだ。●NY 日本人DJ、ヒコのビップ・ホップ12インチSHE'S WILDですごく踊りたい。●YOKOHAMA P.S.Y.Sの私は流行、あなたは世間は、夜の首都高、羽田・横浜を走る時、最高のBGMだと断言してしまおう。●LA カメラが真面目だった。ストーリーだけを追いかけていた。MTVが音楽を変えはじめていた1983年の遺産・トキング・ヘッズのストッフ・メイキング・センス。●TOKYO サム・クックのとてもなく古くラブは本当に楽しめた。2枚組で聞く笠置シズ子の子のブギも時がたったことを忘れさせる。●TOKYO SIDE 28まである14枚組のラブ・ソングスは、9月15日現在、最も効果的な♡印プレゼントのひとつである。



インフォメーションジャングル

The DIAMOND

The ダイヤモンド

YOKOHAMA

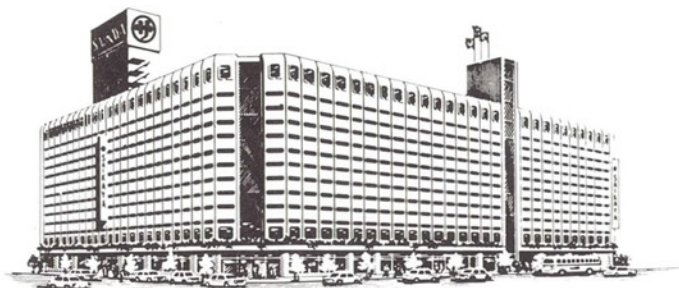
発見の街。

出逢い、それはときめき。発見、それは感動。新しさにふれて、
もうひとつのマイストーリーがはじまる。ポルタは発見の街。

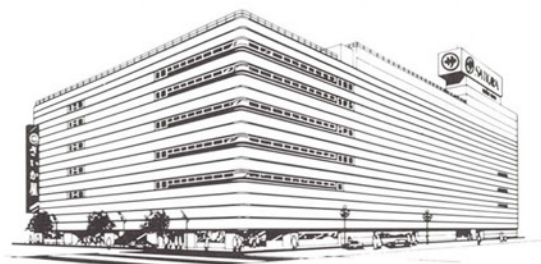


porta
東口地下街 ポルタ

よい品にまごころ そえて 豊かな暮らしのお手伝い。



●川崎店 ☎044・211・3111 〒210 川崎市川崎区小川町1



●横須賀店 ☎0468・23・1234 〒238 横須賀市大滝町1-10



さいか屋

川崎店・横須賀店

水曜定休

世界のファッションと文化のプラザ



●藤沢さいか屋 ☎0466・27・1111 〒251 藤沢市藤沢555



三越グループ

藤 沢

さいか屋

水曜定休

若い仲間のファッションロード
ジヨルナ



●町田ジヨルナ ☎0427・23・2531

〒194 町田市原町田6-6-14



MACHIDA

JORNA

第2・3水曜定休

KIRIN

21世紀へ乾杯



少年は翼を持つ、 英雄になりたかった。

それは息をのむほどに壮麗な風景であつた。
カッパドキアの台地に「妖精の煙突」と呼ば
れる岩峰は林立していた。空気が輝くように
澄みわたり、風は静かにたたずんでいた。
かつて、この地で一人の少年に出会った旅の
詩人は、こう唄ったという。

いつか君は翼を持つ英雄になる

その翼の中で人々の願いは叶えられる

この地に水を呼び、

花で満たしておくれ

人々は詩人の唄う緑の大地を、水の国を一目
見たかった。一步でも近づきたかった。

そしてその想いは、翼のないものに翼をつけ、
聖なる伝説の生き物を生んだ。

麒麟にも炎の翼がある。人々の願いを叶える
ために一枚のラベルに夢が見える。



キリンビール

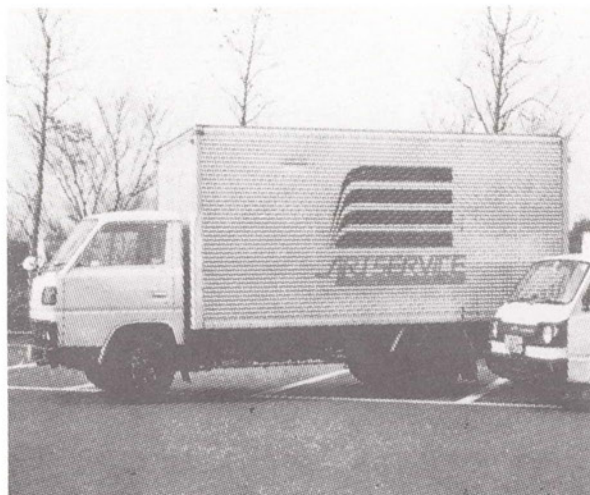
キリンビール株式会社

一搬入・出代行・貸額縁一

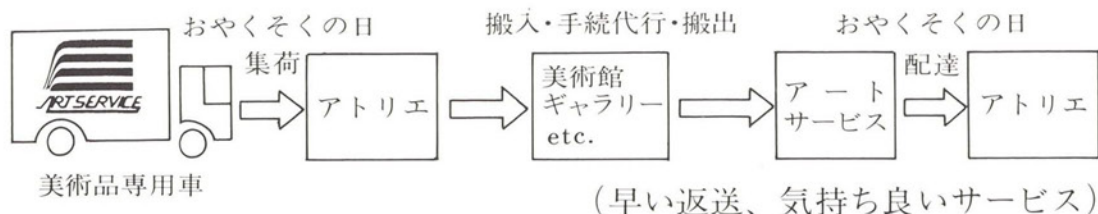
各公募展・グループ展・個展，地方発送承ります

拝啓 時下ますますご清栄のこととお喜び申し上げます
平素は格別のお引き立てをいただき誠にありがとうございます
さて、先生方が御出品されます美術展開催が近づき、当社スタッフも
お客様のご期待にそうよう業務に精励いたしております つきまして
は作品の搬入出、貸額縁、画集用写真等、御用命をお待ちいたして
おります ご希望の方はお手数ですが返信用はがきを当社まで、お送り
下さいませ(郵送無料) よろしく御依頼の程お願い申し上げます

敬 具



- 予約受付
- ◆作品搬入出運搬及び手続代行
 - ◆貸額縁(公募展用本額縁)
 - ◆地方出品荷受、発送業務
 - ◆画集用写真ファイル



アートサービス

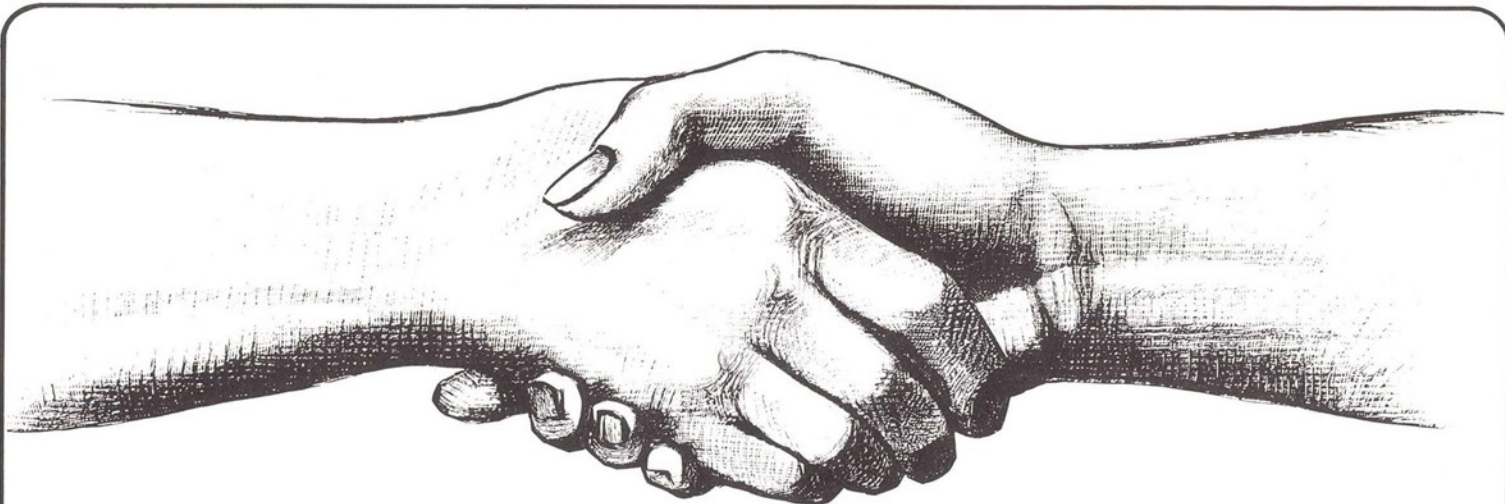
TEL. (045) 715-6444

(営業時間)

火曜～金曜(AM10:00～PM6:00)
土曜・日曜(AM10:00～PM1:00)
月曜定休日 (受付PM1:00まで)

有限会社 アートサービス / 〒232横浜市南区大岡1-18-20

ART SERVICE INC. 1-10-9 ŌKA-CHO MINAMI-KU YOKOHAMA-CITY JAPAN TEL (045)-715-6444



ニーズと新技術ががっちり手を結ぶ。

さわやかに鮮やかに



企画・デザイン・カラー製版・印刷

《カタログ・DM・チラシ・頁物・一般事務用帳票類・包装紙・美粧袋》

朝日オフセット印刷株式会社

横浜市鶴見区本町通 1-22 〒230

☎045-511-0141 (大代表)

下野谷オフ輪工場 ☎ 045-501-2301

朝日グループ

株式会社 **あい企画** ☎ 045-511-5407

有限会社 **鶴見広告社** ☎ 045-521-6250

財団法人 神奈川県美術奨学会



■美術振興基金募集

当法人は、県内の美術振興と新人作家の発掘・育成を目的として昭和45年に設立、以後毎年「神奈川県美術展(神奈川県・神奈川県美術展委員会主催)」に出品された優秀作家に奨学金(美術奨学会賞)を給付していますが、基金を増額し、更に意義ある奨学金といたしたく篤志家の御寄付をお願いしております。

皆様方の御協力をお願い申し上げます。

なお、寄付金は、基金に繰り入れさせていただき、この基金の運用金(利子)から奨学金として給付されます。

発 行 神奈川県美術展委員会
事務局：神奈川県県民部文化室
表紙デザイン あ い 企 画
製 作・印 刷 朝日オフセット印刷株式会社

